



千葉白菊会会報

第58号

令和3年9月発行  
(2021)


二〇一九年末に中国の武漢から始まった新型コロナウイルス感染症に関する話題が連日マスメディアを賑わしています。このコロナ禍で千葉白菊会の皆様も大変な日々をお過ごしになられているのではと心配しております。お元気で過ごすごでしょうか？ 外出制限などで不便をお感じではないでしょうか？ コロナ感染症に罹患されていないで平常と同じように生活されている事を心より願っております。

このコロナ感染の影響は、当然のように大学での講義や研究にも及んでいます。コロナ自粛以前とコロナ自粛期間後では、従来の対面での一般的教育や研究指導は減少し、学生たちは教室に来る回数がかなり減り、ネット環境によるパソコンの画面上のオンライン授業による指導や質疑応答も多くなってきました。ただ、

解剖学の講義や実習に関しては、教員や医学生たちが、各々の間の距離をなるべく広く取り、感染に関して注意を払い、従来のスケジュール（十月～十二月）と大きく変わらない状況で進めることができます。

としては、手洗い、マスクの着用、ソーシャルディスタンス（人と人の距離を置くこと）が最も重要です。そして、いよいよ始まったワクチン接種も有効と言われています。ただ現状では、すぐさまワクチン接種が全員に行える状況ではなく、接種希望の方の年齢にも異なりますが、今後も暫く時間がかかると予想されます。私どもと致しましては、なるべく早く、このコロナ感染症の世界的なパンデミックが抑えられ、感染者数も減少に転じて、日本における従来の生活に戻れることを強く願っております。

## コロナ禍における大学



予防医学センター センター長  
環境生命医学教授

森 千里

きました。令和三年度は、感染対策を徹底することで対面での授業を増やしており、少しずつ普通のキャンパスライフを送ることができるようになってきました。

新型コロナウイルスの感染防止の手段

まだしばらくは大変な状況が続くと予想されますが、白菊会会員の皆様が健康にお過ごし頂けることを心から祈念しております。

# 目次



巻頭言	環境生命医学教授 森 千里	1
医学部長就任挨拶	医学部長 松原 久裕	3
会長挨拶		

「千葉大学医学部の記念すべき年に 千葉白菊会の更なる発展を願う」	会長 大澤 國昭	4
-------------------------------------	----------	---

名簿奉納式		5
成願者名簿		6

令和二年度事業・会計報告		8
令和三年度事業計画・予算		10
紙面講演		

「安心できる救急医療を目指して 実用化の進む2つのシステム」	救急集中治療医学教授 中田 孝明	12
解剖学実習		16

医学部学生 感想文		17
-----------	--	----

平原 由紀・古畑 健太・小口 真司		
徳原 裕樹・神ノ田 紗瑛・山田 四季穂		
伊東 篤志・野原 嘉乃・田中 斗和		
加藤 綜一・平井 啓裕		

看護学部学生 感想文		28
安田 莉奈・高橋 幸子・小口 奈津子		
河野 聡子・榎本 春風		

「解剖を最高の環境で学んでもらうために!」	環境生命医学講師 鈴木 崇根	34
-----------------------	----------------	----

CAL参加者 感想文		37
------------	--	----

清水 知明・荻田 涼・吉本 拓真		
船石 裕樹・上田 玲央斗		

第94回千葉大学医学部解剖慰霊祭		40
------------------	--	----

追悼の言葉	学 長 中山 俊憲	
感謝の言葉	学生代表 村松 彩水	

トピックス		44
白菊の広場		46

田口 馨・藤原 忠愛・高幣 義嗣		
岩崎 明美・阿部 ちづ代		

浜辺 ますみ・飛世 洋子・白川 傳		
日野 桂子・所 久子・松本 和夫		

献体から遺骨返還まで		49
会員の状況		50

寄付者名簿		51
役員紹介		52

事務局からのお知らせ		53
Q & A		54

ご家族の方々へ		56
---------	--	----



## 医学部長就任挨拶

千葉大学  
大学院医学研究院長・医学部長

松原 久裕

この度、伝統ある千葉大学医学部長を拝命致しました。たいへんな重責を担うことに身の引き締まる思いであり、心新たにしております。昭和五十九年に千葉大学を卒業し、本学第二外科に入局、平成十九年に先端応用外科（旧第二外科）教授を拝命しました。消化器外科を専門とし、特に食道癌を中心に手術、治療開発を進めて参りました。医学部長として未来に向けて「変化」と「多様性」を尊重しつつ、世界に向けて「治療学」の情報発信していくことを目指しております。医学部生には能動性・積極性を持った論理的思考、倫理観の醸成を重視し、Student Doctorとして最先端医療の担い手になる自覚を持たせ、グローバル化の推進を目指した人材育成を行っていきたいと考えております。

この六月五日に医学部解剖慰霊祭・感謝伝達式・遺骨返還式が開催されました。ご遺族の皆様、来賓の皆様にご参列賜り、無事終了致しました。改めて医学教育・研究のために献体された方々のお気持ちに本当に頭が下がる感謝の気持ちで一杯となりました。医学部生が他の授業とは異なり、初めてそして強烈に最も医師になる自覚を最初に持つ解剖学実習は昔と全く変わらず、医師として慈愛の念を抱く根底をなすものと信じています。また、急速の医学の進歩の中でも、解剖により人体の構造を知り、究めることはそのたいへん重要な基盤です。さらに今日では医学部生のみならず、外科系医師もご遺体による外科手技の研鑽をご許可頂けるようになり、たくさんの医師が精進しております。ご遺体を捧げられ

た霊位、ご遺族の皆様の崇高なる志に心より感謝申し上げます。ご献体のために活動して頂いている、先日ご挨拶に来ていただいた大澤國昭会長をはじめ千葉白菊会の皆様にも同じく深く感謝申し上げますとともに、今後とも私が目指す医師を育成していくためにご支援を賜りますよう御願ひ申し上げます、挨拶に代えさせていただきます。





会長挨拶



千葉大学医学部の記念すべき年に  
千葉白菊会の更なる発展を願う

千葉白菊会会長 大澤 國昭

千葉白菊会会員の皆様には新型コロナウイルス・パンデミックと言う未曾有の事態に、不安な、そして不自由な生活を強いられておられる中ですが、いかがが過ぎでしょうか。

今年度の千葉白菊会総会は六月五日に予定しておりましたが、緊急事態宣言が五月末まで延長される予測もあり、高齢者集団の当会としてはやむを得ず、昨年が続いて中止にさせて頂きました。

会員の中には、無条件・無報酬の献体の精神で結ばれた同志との出会い、特に有益な講演を楽しみにしておられた方も多く申し訳なく存じますが、何卒ご理解賜りますようお願い申し上げます。

総会議事のうち昨年度の事業内容と決算の報告及び今年度の事業計画と予算については、本会報の中に掲載致しましたので、ご質問やご意見のある方はお手数でも事務局の方をお願い致します。

このような状況の中で、昨年度の千葉白菊会の活動は大学当局のご指導の下、可能な限り会議や打合せなどの集会は避け、会報の編集などを中心とした事務局の作業もテレワークでカバーしたこともあり、会員の皆様には何かと行き届かない点があったかと思われませんが、異常事態に免じて何とぞご寛恕賜りますようお願い申し上げます。

さて、迎えた令和三年度であります、千葉大学医学部としては、記念すべき年となりました。

それは、千葉大学医学部の教育・研究の本拠として役目を果たしてきた医学部本館が築八十年と老朽化激しく、現在の千葉大学医学部附属病院の南西側に「医学系総合研究棟」がこの春に竣工したことで、解剖学関係はもとより千葉白菊会事務局もこの新棟に移転いたしました。

又、大学の人事異動でも献体活動に深



新白菊会室は医学部総合研究棟3階にあります。ただ今会報編集集中！（8月）

いご理解を頂き六年間当会の顧問としてご指導賜った中山俊憲医学部長が、今春めでたく千葉大学の学長に選任されたことは、千葉白菊会一同心より嬉しくお祝い申し上げます。

後任の医学部長として先端応用外科学の権威で今年の日本外科学会学術会議の会頭を務められます松原久裕教授が就任され、当会の顧問にもなっております。

私たちとしても誠に心強く思うと共に、併せて心よりお祝い申し上げます。

千葉白菊会の役員及び事務局の体制も別掲の通り変わりますが、新研究棟の中で心機一転、ベストを尽くす所存です。で何卒よろしくお願い申し上げます。

皆様の中には、高齢者優先のワクチン接種で、何となく安堵された方もあるかと思いますが。しかしコロナウイルスの変種が続出し、オリンピック開催強行で海外からの多数の入国者が避けられない状況で、これからの感染状況がどう展開するか、相変わらず落ち着かない日々を余儀なくされることと思いますが、何よりもご自愛専一にてお過ごし下さいますようお願い申し上げます。

むすびに近隣に医療専門大学が設立されたこともあり、このところ千葉大学への献体申し込みが鈍化しており、皆様方の口コミによるご勧誘を心からお願ひ申し上げ、来年こそは皆様と総会でお目にかかれることを切望し、ご挨拶申し上げます。次第でございます。

※事業・決算報告、事業計画、予算は8〜11ページ、役員紹介は52ページをご覧ください

## 名簿奉納式

6月5日(土)、役員会終了後に名簿奉納式が行われました。

コロナ禍により人数を最小限にしましたが、清々しい緑の中、大澤会長他役員5名と伊藤事務局職員が参加、しめやかに執り行われました。



はじめに昨年度の成願者84名の名簿が会長の手で無事に碑の中に納められました。昭和40年、当会が活動を開始してからの成願者の累計は2,568名となりました。

続いて会長から献花が捧げられ、最後にこれまでに成願された会員に対し参加者全員で黙とうを行いました。(水野)







成願者名簿

故	故	故	故	故	故	故	故	故	故	故	故	故	故	故	故	故	故
鈴木 庄江 様	吉野 松男 様	野田 治男 様	小野田ハツ 様	伊藤 徹 様	林 弘之 様	渡邊 米 様	松本 貴美子 様	大西 和枝 様	渡邊 明 様	菊池 チヨ 様	出澤 富美夫 様	乳井 良子 様	朝武 正子 様	塩野 谷邦三 様	水野 省三 様	浮田 益夫 様	
令和二年十月八日	令和二年十月十一日	令和二年十月十一日	令和二年十月十四日	令和二年十月十八日	令和二年十月二十三日	令和二年十月二十六日	令和二年十月二十七日	令和二年十月二十九日	令和二年十月三十一日	令和二年十一月十日	令和二年十一月十六日	令和二年十一月十九日	令和二年十一月二十四日	令和二年十二月四日	令和二年十二月十三日	令和二年十二月十七日	
香取郡東庄町	勝浦市	船橋市	柏市	船橋市	千葉市中央区	船橋市	茂原市	市原市	館山市	南房総市	千葉市稲毛区	千葉市花見川区	船橋市	千葉市花見川区	東金市	我孫子市	
103歳	84歳	86歳	99歳	72歳	76歳	101歳	101歳	77歳	74歳	92歳	93歳	92歳	82歳	92歳	93歳	90歳	
故	故	故	故	故	故	故	故	故	故	故	故	故	故	故	故	故	故
伊藤 キワ 様	石田 行雄 様	矢部 源吉 様	野口 徳治 様	國吉 美恵子 様	高橋 淑夫 様	大木 俊二 様	齋藤 明 様	並木 まさ 様	鶴岡 武司 様	小林 和夫 様	石橋 治郎 様	道垣 内綾子 様	佐藤 健一 様	本松 週 様	内田 正憲 様	白鳥 豊 様	
令和二年十二月十八日	令和二年十二月二十日	令和二年十二月二十五日	令和二年十二月三十一日	令和三年一月二日	令和三年一月三日	令和三年一月六日	令和三年一月十八日	令和三年一月二十日	令和三年一月二十四日	令和三年二月六日	令和三年二月八日	令和三年二月十一日	令和三年二月十二日	令和三年二月二十二日	令和三年二月二十三日	令和三年二月二十四日	
千葉市花見川区	八千代市	長生郡長生村	印西市	千葉市中央区	柏市	千葉市若葉区	千葉市中央区	南房総市	千葉市花見川区	成田市	千葉市中央区	船橋市	旭市	千葉市花見川区	松戸市	佐倉市	
102歳	75歳	92歳	85歳	88歳	70歳	66歳	102歳	102歳	102歳	78歳	90歳	82歳	93歳	89歳	90歳	80歳	
故	故	故	故	故	故	故	故	故	故	故	故	故	故	故	故	故	故
竹内 弘子 様	尾野 三千代 様	石川 鐵男 様	高橋 宏 様	加藤 百合子 様	牛見 敬三 様	森 富美子 様	中石 憲 様	木佐 貫郁子 様	土井 孝之 様	秋本 惠江 様							
令和三年二月二十五日	令和三年二月二十六日	令和三年三月四日	令和三年三月六日	令和三年三月十一日	令和三年三月十三日	令和三年三月十五日	令和三年三月十七日	令和三年三月十七日	令和三年三月十七日	令和三年三月三十一日							
千葉市緑区	木更津市	富津市	千葉市緑区	千葉市中央区	船橋市	長生郡白子町	我孫子市	八千代市	船橋市	千葉市美浜区							
85歳	70歳	92歳	81歳	83歳	90歳	93歳	83歳	90歳	95歳	97歳							

# 令和二年度事業報告書

令和三年三月三十一日

## 1. 献体登録業務

(1) 令和二年度の献体登録状況は次の通りである。

前年度末在籍数		1,957
今年度状況	入会者数	+68
	献体成願者数	-84
	転籍他	-27
	増減数	-43
今年度末在籍者数		1,914

(単位：人)

## 新規入会時の医師教育への承諾書提出者 六十八人(100%)

- (2) ；解剖学実習及び研究、医師教育用の解剖体は一〇〇%充足された。  
登録会員の実態調査  
会員からの変更届や返信状況を通じて、実態調査に努めた。

## 2. 啓発・広報活動

- (1) 遺族として必要なことを会報で繰り返しお願ひし、また保存版としての「ご家族へのお願ひ」の追加要請にも対応し、「無条件・無報酬」の理念も繰り返し訴え周知徹底をはかった。

## (2)

献体勧誘のポスターを作成し、大学付属病院、医学部同窓会、千葉県医師会などに協力を依頼し、縁故の公共施設にも掲示をお願いした。

## (3)

総会で実施予定だった講演の内容を会報に掲載し、高齢者の健康保持に役立てることができた。

## (1) 3. 総会の実施(中止)

第三十九回千葉白菊会総会を令和二年六月六日(土)午前中、看護学部講義・実習室で実施する予定であったが、新型コロナウイルスの感染拡大状況を鑑み、中止とした。

## (2)

同日の講演会を、千葉大学大学院医学研究院整形外科学教授大島精司先生により「腰の痛みや座骨神経痛はなぜ起きるの？また対処法は」と題して実施する予定だったが、総会中止に伴い先生のご承諾を得て講演内容を「紙面講演」という名目で会報に掲載することとした。

## (3)

例年総会後に行われる名簿奉納式は九月二日に千葉白菊会役員、事務局のみの参加で実施した。

## (1) 4. 会報の発行

会報五十七号を九月中に発行した。この会報に「紙面講演」を記載し、会員からもご好評を得た。

## (1) 5. 大学との連携

「献体の現役医師活用(CAL)」は、令和二年度で三四九人、累計四、三六四人となった。

## (2)

医学生の解剖学実習開講日のガイダンスがオンラインによる実施となったため、事前に会長の献体動機などのスピーチをビデオ収録し、学生にはオンラインにより披露した。

## (3)

医学生の臨床実習に入る証しである白衣式に会長が参加し、良医となる期待と激励の挨拶をした。

## (4)

解剖実習最終日に行われた解剖学教室主催の献花式に会長が代表として参列した。

## (1) 6. 主な行事など

- (1) 二年九月二日 名簿奉納式  
(2) 二年十月五日 解剖学実習開講日  
ガイダンス  
(3) 二年十一月二十七日 (オンライン参加)  
白衣式  
(4) 二年十二月二十三日 (於 ゐのはな記念講堂)  
献花式(於 献体の碑)

※役員会や会報編集などの会合は、コロナ禍のため中止やリモート連絡などにより対応した。



収支決算書

## 令和2年度 一般会計収支決算書

(令和2年4月1日～令和3年3月31日)

収入の部

(単位：円)

項目	予算額	決算額	増減	備考
1. 謝金				
(1) 千葉大学医学部	900,000	900,000	0	
2. 補助金				
(1) 千葉大学医学部のはな同窓会	200,000	200,000	0	
(2) 千葉大学医学部後援会	200,000	200,000	0	
(3) 一般財団法人同仁会	200,000	200,000	0	
(4) 千葉県県市	90,000	90,000	0	
(5) 千葉県市	90,000	90,000	0	
(6) 千葉県医師会	100,000	100,000	0	
3. 特別会計(寄付金)より組入	1,000,000	0	△ 1,000,000	
4. 雑収	10,000	10	△ 9,990	
合計	2,790,000	1,780,010	△ 1,009,990	

支出の部

項目	予算額	決算額	増減	備考
1. 総会費	410,000	0	△ 410,000	総会中止のため
2. 慰霊祭	120,000	60,000	△ 60,000	千葉寺供花料のみ
3. 顕彰費	290,000	148,022	△ 141,978	
4. 懇談会費	50,000	0	△ 50,000	懇談会中止のため
5. 通信費	420,000	586,666	166,666	
6. 印刷費	730,000	573,210	△ 156,790	
7. 会議費	10,000	1,980	△ 8,020	
8. 実費弁償	150,000	48,500	△ 101,500	
9. 交通費	150,000	29,180	△ 120,820	
10. 消耗品	20,000	7,684	△ 12,316	
11. 会費等	260,000	120,000	△ 140,000	
12. 総会・研修会参加費	150,000	0	△ 150,000	名古屋大学(中止)
13. 雑費	10,000	4,286	△ 5,714	振込手数料他
14. 特別会計へ繰入	0	200,482	200,482	
15. 予備費	20,000	0	△ 20,000	
合計	2,790,000	1,780,010	△ 1,009,990	

次年度へ繰越 0

## 令和2年度 特別会計(寄付金)収支決算書

(令和2年4月～令和3年3月)

収入の部

(単位：円)

項目	予算額	決算額	増減	備考
前年度繰越金	1,224,926	1,224,926	0	
1. 寄付金	200,000	470,000	270,000	
2. 特別事業積立金振替	0	0	0	
3. 一般会計より振替	0	200,482	200,482	
合計	1,424,926	1,895,408	470,482	

支出の部

項目	予算額	決算額	増減	備考
1. 一般会計振替	1,000,000	0	△ 1,000,000	
2. 特別事業積立金繰入	200,000	200,000	0	
3. 予備費	224,926	200,000	△ 24,926	千葉大付属病院へ寄付
合計	1,424,926	400,000	△ 1,024,926	

次年度へ繰越 1,495,408

特別事業積立金報告

(1) 期首残額	0
(2) 当期利息	0
(3) 新規積立	200,000
(4) 期末残額	200,000

令和2年度の予算額、決算額に関する帳簿および関係書類を監査した結果正確であることを認めます。

令和3年4月20日

監事 青柳 信子  
監事 吉澤 智之

# 令和三年度事業計画

令和三年四月一日

## 1. 献体登録業務

- (1) 献体の理念の理解度や親族の同意状況を精査し、登録業務を積極的に実施する。
- (2) 献体申込書記載の死亡時の連絡責任者欄への連絡者順位の記入を徹底する。
- (3) 献体の現役医師への教育・研究（CAL）についての活用承諾書の一〇〇%取得を目指す。
- (4) 会員の変更届や返信状況などを通して、登録会員の状況把握を引続き実施する。

## 3. 総会の開催

- (1) 第四十回総会を令和三年六月五日（土）午前中に、看護学部の講義・実習室にて行う。
- (2) 総会において有益な講演を行う。
- (3) 総会に続き、献体の碑への成願者芳名奉納式を行う。
- (3) 「無条件・無報酬」の理念についても、繰り返し訴求していく。

## 6. 主な行事予定

- (1) 六月五日 第四十回千葉白菊会総会
- (2) 八月中旬 肉眼解剖特論（大学院修士課程）
- (3) 九月末日迄 会報五十八号を発行
- (4) 十月上旬 肉眼解剖学実習ガイダンス
- (5) 一月上旬 解剖実習後学生との懇談（激励）会
- (6) 三月下旬 篤志解剖全国連合会の団体部会研修会・年次総会（大阪市立大学）
- (3) 役員会に大学医学部事務部の同席を常にお願いし、また必要に応じて大学関係部署との打合せ会を開き、大学との連携の質と量の向上を図る。

## 2. 広報・啓発活動

- (1) 献体募集ポスターの掲示協力施設をさらに開拓するとともに会員にも会報にて協力を依頼する。
- (2) 献体登録者には「いざと言う時の備え」について周知徹底を図ると共に、ご家族の対応や死亡原因によっては、ご遺体の引取りが出来ない場合もあることを説明する。

## 5. 大学との連携

- (1) 解剖実習前ガイダンスに出席し、献体動機の発表など、大学からの要請には積極的に参加する。又、実習終了後の学生との懇談（激励）を通じて、医学生の人間の成長にも可能な限り努める。
- (2) 医学生の実習時の白衣式に参加し、白菊会として良医となるべき期待を披歴する。

この他、役員会、会報編集会議など年数回実施予定。  
但し、今後の新型コロナウイルス対応の状況に応じて、総会を含む人が集まる行事関係は令和二年度同様延期または中止の可能性がある。

収支予算書

令和3年度 一般会計収支予算書

(令和3年4月1日～令和4年3月31日)

収入の部

(単位：円)

項 目	予 算 額	備 考
1. 謝 金 (1)千葉大学医学部	900,000	
2. 補 助 金 (1)千葉大学医学部みのはな同窓会	200,000	
(2)千葉大学医学部後援会	200,000	
(3)一般財団法人同仁会	200,000	
(4)千 葉 県	90,000	
(5)千 葉 市	90,000	
(6)千 葉 県 医 師 会	100,000	
3. 雑 収 入	0	
4. 特別会計(寄付金)より組入	1,000,000	
合 計	2,780,000	

支出の部

項 目	予 算 額	備 考
1. 総 会 費	410,000	
2. 慰 霊 祭 費	190,000	ご遺骨用ふろしき代他
3. 顕 彰 費	200,000	献体手帳、文集等
4. 懇 談 会 費	50,000	学生との懇談会
5. 通 信 費	650,000	会報、総会案内送付含む
6. 印 刷 費	600,000	会報、封筒代
7. 会 議 費	10,000	
8. 実 費 弁 償 費	60,000	
9. 交 通 費	60,000	
10. 消 耗 品 費	20,000	
11. 会 費 等	120,000	連合会会費
12. 全国総会・研修会参加費	150,000	3名参加予定(大阪市立大学)
13. 雑 費	10,000	
14. 予 備 費	250,000	ノートパソコン購入
合 計	2,780,000	

令和3年度 特別会計(寄付金)収支予算書

収入の部

(単位：円)

項 目	予 算 額	備 考
前 年 度 繰 越 金	1,495,408	
1. 寄 付 金	200,000	
2. そ の 他	0	
合 計	1,695,408	

支出の部

項 目	予 算 額	備 考
1. 一 般 会 計 振 替	1,000,000	
2. 特別事業積立金繰入	400,000	
3. 予 備 費	295,408	
合 計	1,695,408	





# 安心でできる救急医療を目指して



## 実用化の進む2つのシステム

千葉大学大学院医学研究院 救急集中治療医学教授 中田 孝明

総会はずいぶん、せめて会員の皆様に役立つ知識をお届けしたいとの思いで今年も紙上演となりまして。

講師は救急集中治療医学の中田孝明教授です。中田先生は私たちの住む千葉県内の救急医療体制を最新の情報通信技術を駆使して刷新する取組をしています。

千葉白菊会の皆様の中にも、過去に一一九番通報をして、救急車を呼んだ経験のある方もいらっしゃるのではないかと思います。私は、千葉大学医学部附属病院救命救急センターで、命を救うことを職務とする救急医として働いています。「救急医療を必要とする患者さんにより良い医療を提供したい」と思い、仕事に打ち込んできました。

一一九番から始まる救命救急医療は、救急隊、救急病院からなる言わば「命の

リレー」です。救急患者は回復力が著しく低下している状態ですから、このリレーには迅速さが求められます。

にもかかわらず、救急の現場ではさまざまな事情から、これまで救急病院への搬送までに時間を要することが往々にあり、社会問題にもなっていました。いわゆる「救急のたらい回し」です。救急医として、この問題は直ちに解決に取り組むべきことでした。

救命救急医療現場で痛感した時間的ロス

医師、看護師が不足する夜間帯に発生した交通多重事故には、「たらい回し」の原因となる課題がたくさん潜んでいます。多重事故は、救急患者が複数・同時に発生し、症状も様々です。対応のためには自宅で待機している医師を含む十分な人数が必要となります。当時のスタッフの集合要請は、一人ひとりに対して行う電話や携帯電話メールでの通知などでした。この方法では伝達に時間を要しました。医師が全員集合するのを待った上で、さらに状況説明も必要です。収容した救急患者を目の前にして、こうした情報共有にとっても労力が必要でした。救急車到着前に、私たちが救急患者の情報を詳細に知ることができれば、よりスムーズに処置に入れるのと思うことが多々あったのです。

「たらい回し」の解決にICTを活用して

現代は様々な技術が発展してきており、ICTと言われる情報通信技術が日々の生活を豊かにしております。そこで私は、ICTを活用して、救命救急現場にある課題を解決し、「たらい回し」をゼロにすることを目指して研究をはじめました。



まず受入病院側の課題解決へ

まず、救急病院における「医師の緊急時呼び出しシステム」の開発に着手しました。これには院内にあるパソコン、職員が各自で持つスマートフォンやタブレット端末を利用します。集合要請の一斉発信、職員からの返信は、数回のクリックやタップ\*で行えるようにし、また職員の返信内容を分析して、集合可能人数と到着時間が把握できるものを目指しました。

私が所属する千葉大学医学部附属病院救命救急センター、大阪府泉州救命救急センターで試作した後、有効性の検証実験を行い、試作システムをプラットフォーム\*していきました。すると、救急車が到着する前に、スタッフが集合し、専門医が緊急手術の準備が完了する、といった望ましい受入態勢が構築できました。また、スタッフ数が増えるという成果も導かれ、情報共有とスタッフ集合への時間的ロスを省けることが証明されました。こうして実用化されたシステムを「アキュート・ケア・エラスティック・



ICTを活用して「命のリレー」を円滑に行い、「救急搬入のたらい回し」をなくして「患者さんの不幸の転機にならないように」と願い取り組む

システム（ACES）と名付けました。「柔軟な急性期医療を実現するシステム」という意味です。

## 「命のリレー」のために

## 救急患者の情報共有の迅速化へ

次に、迅速な情報共有の有効性を消防局、救急隊へと範囲を広げました。「救急医療情報サービス Smart119」を開発し、二〇二〇年七月より、千葉市消防局に導入しています。これはICTを活用し、救急車出動要請を受ける消防指令センター、救急隊、救急病院の三者で、救急患者情報を瞬時に共有するものです。千葉大学がある千葉市消防局との共同開発でスタート。指令センター・救急隊の要望、問題点などが提示されて、一つひとつを改善していきました。この過程で「患者情報入力に手間がかからないこと」「治療に直結する有効な情報が記録されること」の二点が実用化へのポイントと見出されました。

このサービスの仕組みを説明しましょう。一一九番が最初に繋がる指令センターでは、職員が復唱する救急患者情報（場所、状況、容態）が音声認識で文字情報へ変換され、その情報は出動する救急隊が携行するタブレット端末へ転送されます。現場に到着した救急隊は、フォーマットにしたがって患者の容態などを

## 用語解説

（文中※のついた言葉）

タップ…キーボードを使わず、画面を指で触ることで入力すること  
 フラッシュアップ…洗練させ完成度を高めること  
 フォーマット…定型の書式のこと



119番通報を受ける指令センター  
 職員が復唱する救急患者情報（場所、状況、容態）を音声認識で文字情報へ変換し情報化し、救急隊が携行するタブレット端末へ転送

※タップ入力します。応急処置と並行して、受入要請に必要な情報が整えられます。そしてタブレット端末から、複数の救急病院へ一括して受入要請を送信します。



受入病院にも救急患者情報が瞬時に伝達される。  
 救急車到着前に救急チーム編成と治療方針を確立する。

救急病院から受入可能の通知を受けたら、搬送開始です。移送中の救急車内では、患者の容態推移（血圧や心拍数、血中酸素濃度、症状の変化など）をタブレット端末で入力し、瞬時に受入病院と共有します。このシステムにより、病院では、救急車の到着前に救急チーム編成を完了して、到着と同時に最適な治療を開始できるのです。



「命のリレー」を、情報共有によって円滑にし、救急患者にとって「救命」というゴールをもたらず切り札として、「救急医療情報サービス Smart119」は誕生しました。

### 進歩を上手に届けるために

Smart119の千葉市消防局への導入は、私自身が起業した株式会社 Smart119 (<https://smart119.biz>) により実現しました。医学、ICTの目覚ましい進歩という恩恵を受け、救急患者の「たらい回し」を解決するACESとSmart119を実用化することができました。現在、このICTを救急医療に限定せず、医療全般に広げられることを視野に研究を続けています。医師、研究者、会社が一体となって、未来医療を上手に届けられることを目指し、千葉県で皆さんが安心して暮らせるように尽力していきたいと思っております。

この講演への感想や意見、また質問などありましたらぜひ、事務局までお寄せください。お送りいただいた感想などは、中田先生にもお届けする予定です。



到着した救急隊は、救急患者の容態などを入力し、病院へ受入要請を送信

病院に行くか、救急車を呼ぶか迷ったら、相談しましょう

## 千葉県 救急安心電話相談

県内のプッシュ回線・携帯電話からは #7009  
ダイヤル回線・IP電話・PHSからは 03-6735-8305

**受付時間** 平日・土曜日 18:00 ~ 翌朝 6:00  
日曜・祝日・年末年始 9:00 ~ 翌朝 6:00  
ゴールデンウィーク

**利用上の注意** 救急安心電話相談は、相談者の参考としていただくものであり医療行為は行いません。なお、電話代は有料となります。

## 解剖学実習ガイダンス

例年、初日の解剖学実習ガイダンスには白菊会役員も参加させて頂き、また最終日、納棺式を終えた学生や先生方と懇談会を開催してきました。けれども令和二年度は新型コロナウイルスの影響で、学生がキャンパスに立ち入ることも出来ない状況の中、解剖学実習も実施を危ぶまれました。けれども感染対策を徹底して行うことで、医学生にとって必須なこの実習を行うことができたのです。

十月五日、解剖学実習ガイダンスはメディア授業で行われ、百二十五名の学生は自宅から参加、その後、登校して午後には最初の解剖学実習がありました。午前八時五十分、学生の見つめる画面では、鈴木崇根先生の司会でガイダンスが始まり、森千里先生の講義、献体についてビデオ学習、大澤國昭会長のビデオメッセージと続きました。大澤会長は「無条件・無報酬」の献体の精神を説き、献体という願いを叶えてくれる学生に改めて感謝の言葉を贈りました。

なお、納棺式後に予定していた懇談会も今年は開催出来ませんでした。(青柳)

## 納 棺 式

医学部旧本館での最後の解剖学実習でした



12月23日午後、解剖実習室で納棺式が行われました。学生たちは用意した花束を棺に供えて感謝を捧げ、ご遺体との最後のお別れをしました。

## 献体の碑に献花



長い間ありがとうございました  
安らかにやすみください



納棺式終了後、森教授の献花(左)を見守る学生と教職員

## 医学部学生感想文

医学生生の生の声が聞こえてくる感想文！ 楽しみにしている会員はたくさんいます。感動や驚きに満ちた感想文を読んでいると実習に参加しているような気分になってきませんか。

### 想いと向き合う責任について

平原 由紀

今回の解剖実習を通して、私は大きく二つのことを学びました。一つ目は模型ではなく実際のご遺体を解剖させて頂いたことで、より立体的に人体の構造を理解し知識として身につけたことです。そしてもう一つは、私たちが医師となる過程における学習のために自らの身体を献体してくださることへの驚きと感謝、そしてその想いに向き合わなければならぬ責任と覚悟でした。

二年生の前期までの期間も、医学に関する知識は学習していましたが、人の身体と向き合うのは初めての経験でした。

解剖を始める際に先生がおっしゃった「こちらのご遺体はあなた達の先生であり、初めての患者さんです」という言葉を強く覚えています。この一言でご遺体とはモノではなく、強い意志をもって献体してくださった一人の人間であるという意識がより強固になりました。コロナウイルスの感染拡大を受けて対面式の実習は行えないのではないかと不安でしたが先生方の尽力と我々生徒が一丸となって実施できて本当に良かったと思います。もちろん解剖学の教科書で学習を行うことはできます。しかし、人体には各々異なる点があり、決して標準的な人体構造を暗記するだけでは対応しきれないこと、筋肉、骨、血管、神経、身体を構成する全ての要素が連続的に重なって人間の機能は形作られていること、などは実習室でご遺体と向き合ったからこそ分かった点でした。

医師になるうえで覚悟、負わねばならない責任については入試の面接で言葉にしましたし、医療職の方とお話しすることで理解していたつもりでした。しかしそれは想像上のものでしかなく、実際

に医療行為に通ずる行為を行うと全く異なった実感を伴うものとして体験に刻み付けられることとなりました。私達が向き合っているこちらのご遺体は、解剖学の学習のため、よりよい医師となる学びのために故人が想いを託して頂いた結果であるという事実は緊張感を高め、姿勢を正さざるを得ませんでした。今後も実習、研修、医師となった後の医療行為も含めて患者さんの想いを一つひとつ背負い、それに応えるべく最大限の努力、日々たゆまぬ勉強を行っていく責任を感じています。医学生であるということが、ただの大学生ではなく将来の医療人としての第一歩を既に踏み出しているという意識改革をきつと実習を終えた全員が行ったでしょう。

解剖実習を終え、納棺と献花を班員と協力して行うことで感謝と弔いの意を表する機会を頂けたことに感謝しています。今後は毎年慰霊祭に参列できるので、献体を頂いた故人、またご遺族の方に恥じぬよう医学の道に邁進し、感謝の気持ちを持ち続けていきたいと強く思っています。



## 人生のターニングポイント

古畑 健太

一生に一度の解剖学実習。それは、自分の人生における最も大きな出来事の一つだったと言える。まず何より、医学生としての意識を劇的に変えられた。それまでの自分は、一年生の時に教養や語学ばかりをやっていたこともあり、正直に言ったら医学生としての意識は低かった。自分はなんの変哲もない普通の大学生だと思っていたし、ほとんど勉強もしていなかった。しかし、今は違う。人の遺体を解剖してしまった。今考えても目眩がするような話だと思う。自分はもう普通の大学生ではないのだと強く実感する。罪の意識がないわけではない。が、自分ではできるだけ前を向いて実習に取り組み、実習を終えた。

実習中ずっと自分の心を支えてくれていたのは、ご遺体の先生方の、優しくも強いお気持ちである。僕たちは本実習に取り組む前、ご遺体の先生方が、生前にそのお気持ちを表明されているビデオを見せてもらった。自分はそのとき衝撃を受けた。あの方たちは、自分がいなくなっ

た後も、国の未来のために医学生さんのお勉強に役立てて欲しいと、そうおっしゃっていた。また、ご自身の身体をより良い状態に保つために、トレーニングをしていると言う方もいらっしやう。自分の貧しい感性では、そんなこと考えたこともなかった。なんと美しく気高い精神をもった方たちなんだろうと思った。自分の生涯が終わろうとしている中、未来のためを思い、自分の身体を捧げようと行動できる人がどれほどいるのか。そんな想いを知った以上、自分は全力でこの実習に取り組みないといけないと思った。それまでの怠けた自分とはサヨナラした。我々医学生の勉強のために身を捧げた方たちがいるなら、自分たちが良い医者になるのはもはや義務づけられたと言ってもよい。そうなれないようなら、自分はただ人の遺体を解剖した人間になる。そうは絶対になりたくない。

個人的な感想だが、この解剖学実習というものは、我々医学生にとって、医療従事者となる上での通過儀礼のようなものと思っていた。しかし、これまでに述べてきた、精神面における変化だけな

く、人体に対する理解も大きく進んだ。また、講義によって、どのようにして患者の病気を特定しているか、といったプロセスもいくつか学ぶことができたおかげで、臨床についても少しわかってきた。それらを総合して考えると、この解剖学実習は、今までの自分にとって最も有意義な授業だったと断言できる。もしかしたら、生涯においてもそうだと感じる日が来るかもしれない。そのくらい自分にとって大きな意味をもつ授業だった。遺体を提供してくださった先生方、またそのご遺族の方々には感謝してもしきれません。責任感をもった良い医者になることを誓います。本当にありがとうございます。

## 実習で培った自覚と責任感

小口 真司

献体してくださった先生、またご遺族の皆様、この度は本当にありがとうございます。三か月間にわたる解剖学実習を通して、様々な学びを得ることができ

ました。この大変貴重な経験をさせていただけることができたのは、何よりも献体してくださった先生のご協力のおかげであると感じております。この感想文を通して、献体してくださった先生とご遺族の皆様への感謝と尊敬の気持ちをお伝えすることができれば幸いです。

今回の三か月間の解剖学実習は、驚きと感動の連続でした。人体の複雑さと美しさに魅了され続けた三か月間だった、とも言えるかもしれません。ひとつひとつの組織が各々で機能しながらも全体の調和を維持する人体の機構は非常に美しいものでした。好奇心に引張られながらも真剣に実習に取り組むことで、自らの体験に基づく確実な知識を得ることができました。この知識は教科書をただ読むだけでは到底身に付けることはできません。このような貴重な機会をくださり、ありがとうございます。

学び取ることができたのは、医学的知識だけではありません。医学生としての私の心構えにも変化が生まれたことに気が付きました。私はこれまで、医師になりたい、という自分自身の願望のもと、

医学生として大学生活を過ごしてきました。あくまでも自分の夢のためであり、それ以外ではありませんでした。しかし、三か月間の実習を終えた後、私の心には、医師になりたいという「願望」だけでなく、良い医師にならなければならぬという「責任感」がありました。私たちのために大切なお体を献体してくださった先生の願いと期待に背いてはならない、そんな気持ちです。これからも医学生としての生活は続きますが、今回の実習で培った自覚と責任感のもとで真摯に学習に取り組んでいきたいと思っております。

最後に、ここまで様々に私の思いをつづらせていただきましたが、感謝の思いをこのようにお伝えすることができ喜びと同時に、感謝の気持ちを書き尽くすことのできない限界も感じています。字数のせいでも私の語彙力のせいでもありません。それは、現在の私が感じているものよりも、将来の私はもっともっと先生に対して感謝の気持ちを募らせているのだらうという確信があるからです。医学生として、また医師として、これから長い時間をかけて医学に取り組んでい

きますが、そこで学ぶ知識はすべて先生がくださった知識と経験を土台にして積み上げられていくものです。医学を学べば学ぶほど、いかに今回の解剖学実習が大切だったのかを実感させられていくのだと感じます。今回の体験を決して忘れることのないよう深く心に刻みながら、医師としての人生を歩んでいきたいと思えます。献体してくださった先生、またご遺族の皆様、本当にありがとうございました。



### 解剖学で使われる

#### 用語の解説

(文中※のついた言葉)

**上肢**……肩から先にある腕や手指を含めた全体のこと

**アトラス**……解剖実習で使用する人体の図譜のこと

**同定**……神経や血管などの名前を特定すること

**留置針**……点滴で使う、血管内に入れっぱなしにできる細いチューブのこと

**手技**……治療や手術の行為、手法のこと

## 医学生としての覚悟と 解剖実習への感謝

徳原 裕樹

最初に、ご献体いただいた方、そのご遺族に感謝の言葉を述べたいと思う。毎回の解剖実習をはじめの前、そして終わった後に、僕たちは「献体の精神」への感謝を込めて黙祷をした。この献体の精神とは、死後も自分の遺体を無報酬で提供するという究極のボランティア精神のことである。大抵の人は、自分の体を死後に無償で提供するようなことはそう簡単にできないであろう。実際僕自身も死後に解剖実習のために献体することができると問われたら、その覚悟はまだできないと思う。そのため、実習の度に、この方のような思いで自分のご遺体を提供してくださったのだろうかと考えていた。僕たち医学生がその思いにどのように応えなければならぬか、いかに解剖実習をさせてもらえることに感謝しなければならぬか、などといったご遺体への感謝、敬意を解剖実習が始まった瞬間から今まで絶えず持ち続けており、

自分が将来医者になってもこの感謝を決して忘れることはないであろう。

正直にいうと、実習が始まる前、僕はこの解剖実習に対してかなり不安や緊張があった。はじめて人の死に触れるという不安、新型コロナウイルスが広がっている中で、新型コロナウイルスが広がって遺体を解剖させていただくことへの緊張からの不安である。こうしたネガティブなイメージから、オンラインでの講義のみでいいのではないか、デジタルの教材を用いた実習で十分なのではないか、と思ったこともあった。しかし実習を終えた今、いかにその考えが筋違いであったかということを実感している。講義で頭に入れた単なる知識が、実習を通して立体的構造としてのイメージで頭に入っていくのである。最初はご遺体を解剖するということにとっても抵抗があり、罪悪感を感ずることすらあった。しかし、実際に解剖を進めていく中で、人体の構造がどのようなになっているのかということにとどまらず、人体構造の多様性や人間の死、そしてチームで動くことのやりがい、大変さなど、ただの解剖学講義で学べるこ

とより圧倒的に多くのことを学び、糧とすることができた。実習の三ヶ月は学ぶことがとても多く、大学生活が始まってから最もと言っていいほど身体的にも精神的にも大変な期間であったが、それと同時にこの三ヶ月は、改めて自分が医師になるのだと実感することのできたとても大切な期間であったと感じている。

実習で解剖させていただくご遺体は、医学生にとってははじめての患者さんであると先生が仰っていた。この解剖実習を通して学び感じた様々な事柄を、これから先の人生で忘れることは決していないだろう。これから先の四年間は、今までよりも勉強が忙しい時期になると思う。あまりの忙しさに途中で投げ出したくなる時もあると思うが、立派な医師になるためにこの関門を越えなければならぬ、そうでないと解剖させていただいたご遺体に失礼であると感じ、改めて医学生としての覚悟を持った。医学教育に関わってくださっている全ての方々への期待に応えられるような、社会に貢献できる医師になれるよう、これからも絶え間ない努力をしていく所存である。



## 実習は個性を学ぶもの

神ノ田 紗瑛

肉眼解剖学の授業が始まる時の説明会では、この授業の目標の一つが「人体構造の普遍性と個性を学ぶこと」であることを知りました。説明会の時点でその言葉は頭の片隅にある程度だったものの、実際にご遺体を解剖してみると、血管や神経などの構造物が教科書通りでないことも少なからずあり、「人体構造の普遍性と個性を学ぶこと」とはこういうことかと納得しました。今の時代、3Dの人体を見ることが出来るアプリもあるし、教科書に書いてあることを学ぶのだから、正直その方が楽に学べるかもしれない。見つけたら構造物が見つからず、後でアプリで見ればいいやと先に進みたくなることもありました。しかしその度に、実習は個性を学ぶためにやっているのだということ思い出しました。また、先生がおっしゃっていた、ご遺体は初めての患者さんだという言葉も思い出しました。今は見つけられなくても誰も困らないかもしれない。でも将来患者さんを

目の前にした時、目的の構造物が見つからなかったら。そう考えるともう少し探してみようと思うことができました。

また、解剖実習はチーム医療を学ぶ場という点でも重要でした。数か月にわたって同じメンバーで実習を行ったことは初めてであり、知識も器用さも違うメンバーで、ベストな解剖をするための役割分担を考えたり、構造物について知っていることを教え合ったりしたことはチーム医療さながらでした。自分が間違っているかもしれないけれど、患者さんのために思っていることをとりあえず口に出す大切さと難しさも学びました。

「それは○○動脈ではなく△△動脈ではないのか」というようなことをメンバーに問うことは、切るべきではない構造物を切ってしまうといったミスを防ぐために重要です。このように、解剖実習は臨床現場を意識させてくれるものでした。

最後になりましたが、献体してくださった方々、並びにそのご家族、ご献体から最大限、学べることにしようと試行錯誤してくださった先生方、献体に携わる全ての方々に深く御礼を申し上げます。

献体してくださった方に関しましては、医学生が優秀な医師になれるようにとの思い、とても尊く有り難いものであると感じています。ご家族に関しましては、ご遺体と通常のようなお別れをできなくなるにも関わらずご協力いただき、重い決断であったらうと想像すると感謝してもきれません。おかげさまで患者さんの個性と向き合う大切さを知り、医師になる覚悟がより固まったように思います。ご献体に対し、ご冥福をお祈り致します。



## コロナ禍で実習が行えなかったことに感謝

山田 四季穂

解剖実習を通して私が一番変わったことは医学生としての意識です。

実習が始まるまで、私は医学部に入学したものの一年生の間は医学の勉強はほとんどなく、二年生になって基礎医学の授業は始まりましたが、新型コロナウイルスの影響でキャンパスにも入ることが出来ず、まだなんとなく高校生の頃と変わらない気分でした。しかし、実習初日に初めて解剖実習室に入り、ご遺体のお顔を見た時、一気に気が引き締められました。

私は物心がついてから身近な人が亡くなった経験が無く、初日に固く冷たいご遺体に触れた時に初めて人の死を強く実感しました。私が将来なろうとしている医師という職業は人の生死に関わる職業であるということも大きく実感しました。実習を通して「死」というものを強く感じた今、三ヶ月前までのふわふわした気持ちはもうありません。

私はいつも実習の前後に行う黙祷の時間に「今日はこんなところを見させて頂きます。宜しくお願ひします。」「今日はこんなことがわかりました。有難うございました。」「と、心の中で話しかけていたのですが、実習が進んでいく中で、全身にメスを入れ、体の中を隅々まで見させて頂いていることが申し訳なくなり、心の中で謝ったことが何度かありました。また、ご遺体の先生はどんな人生を送っていたのだろうか、ご遺族は大切な人を見ず知らずの学生に解剖されることに対してどう思っているのだろうか、と考えて度々辛くなることもありました。しかし、今振り返ってみると私達の勉強の為に身体を差し出してくださっているのに、申し訳ないと思われてしまうことは望まれなかったと思います。改めて、私達のために献体してくださった方とご家族の方に感謝を申し上げます。本当に有難うございました。

コロナ禍において実習が行えるのか不安も大きかったのですが、解剖実習を無事に終えることが出来、非常に良かったです。実習で人体の構造の複雑さを実際

に確認したり、一人一人少しずつ血管の走行が異なっていたりするのを見て、人体の不思議さを感じ、医学により興味がわきました。

将来自分がどのような医師になるのかはまだ分かりませんが、どの科に進んだとしても解剖実習で学んだ事、解剖実習という経験そのものは決して忘れないと思います。三ヶ月間、自分なりにはしっかり予習をして、実習中も出来るだけ多くの事を学べるように頑張っていたつもりではありましたが、思い返してみればまだ頑張れたのではないかな、と反省する部分もあります。この反省は今後しっかり勉強することで挽回していきたいです。まだ医学の勉強は始まったばかりですが、いつか私達のために献体してくださったご遺体の先生に認めて頂けるように勉強に励み、良い医師となる事が出来るように精一杯頑張っていこうと思います。

## 患者さんとの向き合い方を学ぶ第一歩

伊東 篤志

私たち千葉大学医学部二年生は二〇二〇年十月から十二月までの三か月間、肉眼解剖学実習を通じて非常に充実した、他に代えがたい経験をさせていただくことができました。実習を振り返る前に、ご献体いただいた先生方、ご遺族の皆様、および教員の方々等、実習に関わってくださったすべてのの方々に感謝申し上げます。

私は医師を目指して医学部を受験しようとしたときに肉眼解剖学実習というものがあることを知り、それ以降そのような貴重な経験ができることをずっと待ち望んでおりました。しかし、今年度は新型コロナウイルスによる影響で対面での実習ができるかどうか危ぶまれ、直前まで実施可能かわからない状況でした。そのような中で様々な方々のご協力のおかげで実習が行えると決まったとき、この機会を最大限生かして人体の構造、機能を学ばなければならないという強い使命感を感じました。

肉眼解剖学実習を進めるにつれて、その使命感はさらに強くなっていき、併せて献体いただいた先生方のご意思の尊さを強く感じるようになっていきました。

私たちの班が解剖させていただいた先生はご立派な体格をされていて、「解剖させていただく私たちのことを考えて亡くなる直前までお元気に運動などなさっていたのかもしれないね」などと班員のみなど、生前の様子に思いをさせて実習を行うこともありました。実習で人体について学んだことはもちろんですが、ご遺体を人生で初めての患者さんであると考え、班というチームで真摯に患者さんと向き合った三か月間は、病院実習やそれ以降の医師人生につながる患者さんとの向き合い方を学ぶ第一歩であったと思います。この経験を私たちが忘れずに医師として働くことで、ご遺体の先生方のご意思がこの先何十年にもわたって世の医療に貢献していくことへの橋渡しができるのではないかと感じ、同時に責任感も感じております。

先生方の尊いご意思にご賛同いただいたご家族の方々にも心から感謝申し上げます。

私自身五年前に祖父を亡くしましたが、亡くなった祖父とひと時でも離れてしまうのは筆舌に尽くしがたいほど寂しかったことを覚えています。ご家族の皆様もその時の私と似たお気持ちを感じられたのではないかと思います。

私事ですが、家族に医療関係者はおらず、母は私がこの解剖学実習を行ったことで初めて献体について知る機会となり、少なからず興味をもったようです。先生方と同じ非常に尊い献体の精神を少しではありますが広がれるのに貢献できたように感じ、うれしく思います。

最後に、先生方のご意思に恥じぬよう、絶えず努力を続け、世の役に立つ医療者に成長したい、しなければならぬと強く感じます。改めて、献体いただいた先生方とご家族の皆様へ最大限の感謝をいたしまして、結びとさせていただきます。





## 医師としての 起点となった解剖実習

野原 嘉乃

医学部生にとって、解剖実習は最も印象的な経験のひとつであることは間違いないだろう。私たちにとっては、二〇一九年末から今も続く未曾有の事態の下で、より特別な経験になった。

医学部に入学してから一年間は、教養を中心に学んできた。二年生に進級してからは、医学専門科目を学ぶようになったが、COVID-19のパンデミックにより、実際に大学のキャンパスに登校することなく前期を終えた。ビデオチャットサービスを利用したリアルタイムでのオンライン授業を受けたり、録画された講義動画を視聴したり、オンラインで出された課題をこなしながら理解を深めたり、いずれにせよこれまでの医学部二年生とは違う大学生活を送ることになったのである。後期に入っても多くがオンライン授業である中で、解剖実習は、感染防止策をとったうえで、唯一特別に許された対面での実習であった。その緊張感は、初

めて接する患者であり、私たちに解剖学を教えてくださいださる先生であるご遺体を前にする緊張感と合わさり、引き締まる思いで実習が始まった。

実習を行いながら常に感染防止に気を配るのは、確かに例年の実習とは心構えが少し違うかもしれない。しかし、常に感染症に感染するリスクを考えて行動することは、医療従事者として当然のことであり、医学生として自覚をもって行動しようと思えたことは、コロナ禍でこそその学びである。

実習初日からの約三ヶ月間はあつという間で、このように思い返す機会に、改めて実習で学んだことを消化している。最も印象に残っているのは上肢の神経である。繊細な構造を目の当たりにし、日常生活で自分が行う何気ない動きの一つ一つが、この細い神経によって支配されているのかと思うと、とても神秘的に感じた。ほかにも人間の身体の構造や機能をたくさん学んだが、教科書やアトラスで分かりやすく描かれているものではなく、実際の組織を自分たちで同定する作業は、臨床につながる重要なことであり、

実習の回を重ねるたびに、献体をしてくださいださる方とそのご遺族への感謝と、さらに感謝の気持ちだけで終わらせてはいけないという思いが募った。医療の発展を願い、またそれを私たちに託してくださいださる方のご意思を、そして「臨床に役立つ知識や経験を」と私たちのことを考えて、様々な手技を経験する機会を与えてくださった先生方のご厚意を、決して無駄にすることなく医療に役立てていかねばならないと、強く責任を感じている。今思えば、これは「患者の意思を尊重し、自分にできる最善を尽くしたい」というように、将来臨床の現場で出会う患者ひとりひとりに対しても感じる責任と同じではないか。そう思ったとき、改めて「解剖実習でのご遺体の先生は、一人目の患者である」という言葉が深く心に響いた。たくさんの方々を支えられ、学ぶ機会をいただき、特に献体をしてくださいださる方の思いを受け止めて感じた責任は、この先実際に医療に従事するようになって、常に忘れることのない、医師としての起点となるだろう。初心に戻ろうと思ったとき、この二〇二〇年の解剖実習

を思い出すに違いない。繊細な構造を扱うというミクロな視点、そして患者と向き合うというマクロな視点、両方の大切さを実感できたことで、医学生としての自覚がより一層増し、視野が広がった三ヶ月間であった。

※用語の解説は19ページを参照してください。

## 他者の気持ちを汲み取り 解釈することの大切さ

田中 斗和

「それでは献体の精神に感謝して、黙祷。」この文言を聞くと、自然と換気のスイッチを押し、実習台の電気をつけるようになっていました。それほどまでに当たり前になっていたこの言葉ですが、初めて聞いた時から最後に聞いた時まで、常に新鮮な感覚で自分には聞こえていました。また、目の前に献体の先生がいらっしゃり、実習書通りに解剖を進めていくという行為が、ご遺族・献体の先生方の協力がなしでは不可能であることをこの文言は私たちに何度も再確認させてくれました。

私は正直、この解剖実習が始まるまで

は、献体の先生を目の前にして解剖を行えるかどうか心配でした。しかし、解剖実習が始まる前、献体の先生方・そのご遺族の方々が我々に期待していることを考えた時に、真摯にこの解剖実習に取り組むことが、私たちが出来る精一杯の恩返しなのだと思います。最後まで人の役に立ちたいと思う献体の精神がこの実習を可能にしてくれているのだと自覚した瞬間、「それでは献体の精神に感謝して、黙祷。」という文言をスッと飲み込むことが出来ました。宿題キーワードやe-learningで予習をして授業に臨み、授業内グループワークに参加し、講義をしつかりと聞き理解した上で実習書の予習をして解剖実習に臨む、その後分からなかったところも含めて復習を行う、字面だけだと自分がしていたことはこれだけですが、常に献体の先生への感謝を忘れていませんでした。「百聞は一見に如かず」といったことわざにもあるように、献体の先生方のおかげで、講義では理解できなかったところも、実際に自分たちで見つけ出すことで深く理解することが出来ました。

解剖実習で自分が学ぶことが出来たのは、もちろん身体構造の知識だけではありません。また、精神面での学習および成長も出来たのですが、実際に様々な価値観を持った人たちと協力して作業することの難しさを知ることが出来たのが個人的にはとても大きな収穫となりました。鈴木先生が最後の総括でもおっしゃっていたように、実際の医療現場でも価値観の異なる人が沢山いて、その人たちと上手く折り合いをつけて関わっていかないといけません。解剖実習を通じて、少しでもその折り合いの付け方、価値観が異なる人たちとの関わり方・接し方を学ぶことが出来たのは将来の自分にとっての糧となりました。本当に沢山のことを学ぶことが出来ました。

自分が医者になる過程の中で、解剖実習がかけがえのない経験になったことは言うまでもなく、また、医学生としての自覚を芽生えさせてくれるきっかけにもなりました。最後になりましたが、解剖実習に関わった全ての先生方・ご遺族の方々に心より感謝申し上げます。ありがとうございました。

## 医師は多くの人によって 育てられていくと実感

加藤 綜一

解剖実習が十月に始まり十二月に終わるまでであったという間の三か月間だった。解剖実習が始まる直前まで自分をご遺体を解剖させていただくという実感がわかず、これから四年後に医師になるという道も漠然としていた。そんな気持ちの中で献体してくださった方の顔を初めて見た日に、こんな自分が実習に参加していいのかという怖さを感じたのを覚えている。献体してくださる方は、解剖する学生が見やすいようにと筋肉をつけてくださっている。そんな気持ちにしっかりと応えて学ばなければ失礼だと思った。

解剖実習で学ぶことは二方面ある。一つは医学面でもう一つは倫理面だ。医学面は、ご遺体をじっくり観察して筋肉、神経、血管について学ぶ。筋肉ひとつを学ぶだけで、筋肉の名前、その筋肉はどこから始まりどこで終わっているのか、その筋肉に指令を出している神経はどの神経なのか、その筋肉の働きは何なのか

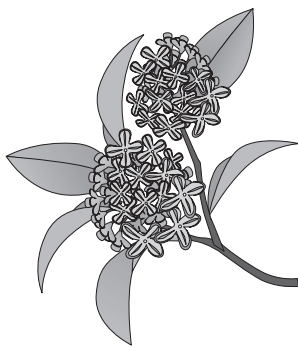
といったように膨大な量の暗記が必要になる。この筋肉を全身で百以上覚える必要がある。大変だと思われるが、ご遺体で一つ一つ確認していくと不思議となぜか簡単に覚えられる。さらに千葉大学の解剖の授業はほぼ毎回、その日解剖させていたただく場所の専門の先生が病氣と絡めた臨床的な話をしてくださる。車の設計がわかると車の故障の原因と修理方法がわかるのと同じで、解剖がわかると構造的に原因がわかる病氣がある。この血管とこの血管の間にこの臓器がはさまれるのでこんな病氣になってしまうといった具合に病氣についてまで学べる。学んだ知識を実際にどのようなように使えばよいかかわかった。これから四年後に医師になる過程にどのようなステップを踏んでいくのが実感できてきた。また、ご献体で気管挿入や留置針の挿入、縫合などの\*<sup>\*</sup>の\*<sup>\*</sup>の手技もさせていただき貴重な経験になった。

倫理面で学んだことも大きい。私たちの班が解剖させていただいたご遺体は、腹腔内臓器が炎症を起こしさらには大きい大動脈瘤もあった。闘病中の苦しみや

痛みは想像を絶するものだったのでないかと思いが苦しくなった。そんな方が学生の勉強のためにと献体してくださったその気持ちを考えると責任感と感謝を強く感じた。死後に自分の身体を学生に提供することは強い気持ちが必要でできないことだと思ふ。その気持ちに見合う強い気持ちを持って毎回解剖させていただいた。その過程の中で医師は多くの人によって育てられていくものだと実感した。

最後に、献体してくださった方々、ご遺族の方々に厚く御礼申し上げます。皆様のご厚意によって多くのことを学ばせていただきました。よい医師となり社会に貢献することが皆様への恩返しだと思います。皆様の思いを忘れずに精進してまいります。ありがとうございます。

\*用語の解説は19ページを参照してください。





## 実習を終えて感じる 安堵と達成感

平井 啓裕

二〇二〇年の十月から十二月の三ヶ月にわたる肉眼解剖学実習が終了した。振り返ると、長いようでとても短く濃い時間だった。実習が始まる前と終わった後では、自身の気持ちと医師への心構えに大きな変化があったので、それについて述べたいと思う。

そもそも、今年度は新型コロナウイルス感染症の影響もあって、例年通り実習室で解剖を行えるかも、直前まで分からなかった。そういつたどこか落ち着かない気持ちに加えて、ご遺体に触れて解剖するということの未経験のことに対しての不安もあり、三ヶ月間乗り越えられるか正直不安であった。

実習の初回では、ご遺体と対面しメスを入れて、やはり緊張して少しメスを入れることに抵抗感があった。しかし、それ以上に感じたことは、献体をして頂いたご遺体の方を前にして全力で解剖学を学ばせて頂きたいということだった。実習

期間はとても忙しく疲れを実習中に感じることもあった。しかし毎回の実習ごとに着実に多くの知識が、ご遺体で実際に見させて頂いた画像イメージとして身につけていたので、やりがい強く感じていた。実習は回を重ねるごとに難易度と情報量が増していったが、何とか終了し、試験も乗り越えられることが出来た。解剖学実習を無事終えられて大きく安堵し、全力でやりきったという達成感も感じた。

医師への心構えについても大きな変化があった。実習が始まるまでの授業は座学ばかりで、直接将来の仕事に関わるような内容ではなかった。医師についてあまりイメージできなかった。だが実習で人体を解剖し知識を得られて、医師への第一歩を踏み出すことが出来たと実感した。具体的には、自分の班のご遺体と他の班のご遺体では、人体の構造が異なる箇所もあり、教科書とも異なる部分があった。解剖の最初はそれで混乱したが、慣れていくとその違いもうまく処理できるようになっていった。医師となっても、初めて目にするパターンはたくさんあるだろうし、落ち着いて基本構造と

照らし合わせることが重要だと感じた。また、実習は班単位で行うので班員との協力が不可欠であった。三ヶ月間多くの時間を一緒に過ごすというのは大変なことで、一人でも自分勝手な人がいると、班の雰囲気が悪くなり作業効率も格段に落ちる。そのことは容易に想像出来たので、班員とのコミュニケーションは気を遣って行った。私の班の班員は皆いい人達で、良いチームワークで進められたと思う。将来のチーム医療でも、同僚とのコミュニケーションはとても大切であると思うので、その練習が出来た。

最後に、私は解剖学実習を通して多くのことを学ぶことが出来たが、今年度の解剖学実習を行うことが出来たのは献体して頂いた方々と、対面実習のために尽力して頂いた先生方のおかげである。他大学の医学部では、解剖学実習が満足に出来なかったという話も聞いており、千葉大学医学部で解剖学が出来たのは、とても貴重な経験でありがたかったと思う。感謝の気持ちを忘れずに、今後の医学の勉強に解剖学で学んだことを活かしていきたいと思う。

## 看護学部学生感想文

令和二年八月二十四日、看護学部二年生が形態機能学実習の一環として解剖見学をさせていただきました。例年五月に実施していましたが、昨年度はコロナ禍で実習が延期となり、八月の実施となりました。学生は始め緊張した面持ちでしたが、慣れるにつれて初めて見る人体の内部構造に目を輝かせ、手で触れながら観察を進めていました。感想文にもあるように、解剖見学は学生にとって大きな学びとなりました。

(小宮山)

### 解剖学で使われる

#### 用語の解説

(文中※のついた言葉)



#### アセスメント (看護学)

……本人が訴える症状と検査データなどを理論的に分析し、優先度をつけていくこと

#### 神経叢

……脊椎動物の末梢神経の基部や末端部で、多数の神経細胞などが枝分かれして網状になっている部分

## 看護につながる 人体解剖見学

安田 莉奈

ご献体を包んでいる半透明の袋が開かれる時、周りの空気がピリッと締まったように感じました。私たちのような学生の勉強のためにご自身の身体を捧げてくださった目の前の方々のことを思うと、感謝の気持ちでいっぱいになるとともに、絶対に実りある学習にしようという意欲も湧きました。

身体の中を見て先生方の解説を聞きながら思ったのは、人間の体のはたらくには無駄がないということでした。心臓や肺、消化器系など、一つ一つの臓器が別の働きを担っていて、人間を生かすために動いていた痕跡がしっかりと残っていました。全身に血液を送る動脈は太く弾力があり、食べ物を消化する胃や、栄養を吸収する小腸の内側にはたくさんヒダがついていました。身体中をめぐる動脈や静脈、無数に走行する神経を間近で観察していると、一人の人間を生かすパワーが身体中から感じられるようでした。

また今回は三人のご献体を見学させていただきましたが、同じ臓器でも色や形、大きさが少しずつ違っており、体の中のとくりにもやはり個人差があるということを感じました。

大学一年生で形態機能学の勉強をしていた時、私は正直「看護師は医師のように体の中を治療するわけではないのに、こんなに詳しく人体の仕組みを学ぶ必要があるのかなあ」と思っていました。勉強しなくてはいけない量が多く、内容も濃かったからです。ですが今回の人体解剖見学を通して、身体の中を直接治療するわけではない看護師も、人体の構造や機能について知識をつけることの必要性を感じました。身体の中で起こっている働きを知らないで、体の外から正しい看護アプローチをかけることはできません。患者さんの食事や運動などの日常生活が、その人の身体にどのような影響を与えているのかを想像することもできないでしょう。そう考えると、ただ形態機能学の教科書を眺めて試験の過去問題を解き、解答を「暗記」していた自分の勉強方法がほとんど意味のないものだったと改め

て気づきました。人体の構造や機能を学ぶ時には、その臓器と関係のある病気を一緒に調べたり、その病気の予防や治療のための看護的知識と一緒に学んだりする事で、ただの暗記ではなく多方面からその臓器や働きを理解できると思えました。今回の解剖見学は、その多方面からの学習として非常に意味のある時間だったと感じています。

今回実際に見学したご献体で、心臓の大動脈に粥状動脈硬化が起きているのを目にしました。「こんな風に血管壁に脂肪が沈着するんだ」「本当に血管が硬くなるんだ」と、初めて見る実際の動脈硬化一つでも色々なことがわかりました。と同時に、この方の血管が動脈硬化の状態に至った因子は何だったのだろう、もしも私が看護師として看護をしていたらどんなアセスメントをしただろうという考えも浮かびました。

これから私は看護師として多くの患者さんの健康に関わることになると思います。今回は解剖された身体の中を見て病気を想像しましたが、今度は生きている患者さんの病気から実際の体の中の様子

を想像し、身体の外から患者さん一人一人に合わせた看護ケアができるような看護師になりたいと思います。

※用語の解説は28ページを参照してください。

## 色即是空、空即是色

高橋 幸子

看護学部二年次の形態機能学実習において、人体の構造を理解するため献体に学ぶことを目的として人体解剖見学をさせていただきました。先生から解剖見学の事前説明を受けて白菊会のことを初めて知り、「献体」は無条件・無報酬からなる自発的行為であり、自らの体を医学の発展のためにささげるといふ篤志行為であることを学びました。また献体をされることから遺骨が返還されるまで二〜三年待つことになる間、ご遺族はどのようなお気持ちでその時を過ごされているのだろうかと思いを巡らせました。献体をされた方、そしてご遺族の皆様、白菊会の皆様様に深く感謝申し上げます。

解剖室に入室すると目の前にはシートがかけられた三名の献体が処置台に横たわっていました。亡くなった方と対面す

る事が少ないため強い緊張が走りましたが、医療従事者の卵として人体の構造を学ばせていただくという覚悟でみぞおちに力が入り、落ち着いて献体を観察することができたと思います。

私は事前学習として『腹膜』および『動脈と静脈』について予習を行っていましたが、腹膜は腹腔内にある肝臓や胃、小腸、大腸などの腹部の臓器を保護していますが、その構造は複雑であり、全体的な構造を立体的に把握する事が難しいと感じていました。病態学実習などの講義では臓器の観察ができましたが、腹膜を観察する機会はなく、人体解剖見学で観察することで腹腔、腹膜、臓器の位置関係の理解が深まると考えました。動脈と静脈はその走行や太さ、臓器との位置関係などを全体的に観察する機会がなく、特に体表に存在しない動脈と静脈がどのくらいの深さ、太さで走行しているのか、左右差を目視で確認したいと考えました。このような事前学習のもとで臨んだ解剖見学では、脳のずっしりとした重み、臓器の奥行や動脈の太さ、弾力を触れて感じ、肺に空気が入るときの大きな膨らみ、



脊髄と脊髄神経の走行は美しささえ感じ  
るほど緻密なものでした。人体には胎児  
の頃のなごりが残され、生体の内部環境  
の恒常性を維持するために複雑な構造に  
なっており、多くのことを実感とともに  
学ぶことができました。

先生の解説を聞きながら様々な器官を  
観察する中で、手とお顔を拝見した瞬間、  
生前の姿が浮かびあがってきました。や  
せて骨ばった大きな手は長い人生を生き  
抜いた証であり、献体が急に身近な存在  
に感じられ、まるで祖父に直面している  
ような気持ちになりました。「おじい  
ちゃん、本当にありがとう」と心の中で  
祈ると同時に緊張で固くなった自分の体  
が和らいでいくのを感じました。白菊会  
に入会し、未来の医師や看護師のために  
自身の体を提供したいという尊い決断を  
された目の前のご献体に尊敬の念を抱か  
ずにはいられませんでした。私は解剖学  
見学とちょうど同じ頃に、緩和ケアの勉  
強として仏教の般若心経に関する書籍を  
読んでおりました。「この身体が我であ  
り我がものである」という執着がすべて  
空っぽになった「空」という理想の存在

となれば老病死という苦から解放され  
る」という經典の内容が献体の方と重な  
るように感じたことと、献体の方のご  
縁によって自身の医療者としての礎が築  
かれることを心の中で大切にしていきた  
い思い、「因と縁」に関連して自身に起き  
ている事柄は不思議とご縁でつながって  
いるという日々の思いから、「色即是空、  
空即是色」という言葉を感想文のタイト  
ルにしました。

今年度は新型コロナウイルスの影響で  
病院実習が中止になり、患者さんと関わ  
る機会がなくなってしまうました。困難  
な状況の中、解剖見学を実現していただ  
き、大学の先生をはじめとする関係者の  
方々のご尽力に感謝しなければいけませ  
ん。



## 白菊会への感想文

小口 奈津子

人体解剖の授業を経て、私は我々が  
「生きている」ことを強く意識するよう  
になりました。それは手を通して伝わるご  
献体の冷たさから「死」に直面し、それ  
と同時に我々の体を持つこの温かさが何  
よりの生きている証拠なのだと思ふこと  
ができたからです。血圧測定や採血など、  
医療職を目指す我々学生には人に触れる  
機会が多々ありますが、手から感じるそ  
の温かみに触れる度に目の前の対象者が  
生きていることを実感し、生命の尊さを  
感じます。この限られた尊い生命を守り  
たい、そんな使命を持ち対象者と接する  
ようになり、医療職としての覚悟が芽生  
えました。

私は看護学部生も人体解剖の授業に参  
加できるとは思っていなかったため、今  
回の機会はとても有難く楽しみにしてい  
ました。普段我々は授業を通して人体の  
構造や機能について学んでいます。百  
聞は一見に如かずという言葉の通り、ご  
献体を通しての学びは格段に理解度が深

まり、今まで別々に学んできた知識が互いに結びついたことでより確実な理解となりました。

ご献体から拝見する人体の構造は精密で、それでいて複雑でした。骨、筋肉、神経、血管など何百個以上にも及ぶ構造の一つ一つが存在し、この体の中で組み合わさり機能しているのだと思うと、驚きを隠せませんでした。そして、これら一つ一つに個体差はあれど、現在生きている我々の体の中にも存在し、誕生から現在に至るまで機能しつづけ我々の生命活動を維持しているのだと思うと、普段目に見えない、感覚に及ばない臓器についても意識が及ぶようになりました。食事をするとき、体を動かすとき、物事を考えるとき、我々が日々行う活動の中で人体がどの様に働いているのかを頻繁に考えるようになり、解剖実習でご献体から学んだ知識が私の理解を深めてくれるようになりました。

手に取って観察させていただいたそれぞれの臓器は想像以上の重さがありました。脳は特に重く、手に伝わる重みから、ご献体の方が生まれてから亡くなるまで

に経験した記憶がこの中にあるのだと、思わずにはいられません。お名前も存じ上げないご献体の方でしたが、「何を思い、感じ、どのような思い出を記憶しながらその生を全うされたのだろう」と生前ご献体の方が歩んでこられた軌跡に思いを巡らせました。目の前にいるご献体の人生を改めて強く感じ、我々医療職は一人ひとりの生き方を尊重した医療を提供していかねばならないのだと、身の引き締まる思いでした。

ご献体が自らの身体を通じて教えてくださったこの貴重な学びは、我々学生の記憶に深く残り、大きな糧となりました。我々は医療職として、今回のこの学びを、今を生きる人々のためにより良い医療として発展させていかなければなりません。これから看護職として多くの命と向き合う私は、看護を通して生命を守り支えながら医療に貢献していきたいと思えます。この度は大変貴重な機会をいただき、本当にありがとうございます。

## 解剖見学での貴重な経験と ご献体への感謝

河野 聡子

まず始めに、ご献体いただいたご本人様、そのご家族様、ご親族様、このような機会を設けていただいた千葉白菊会様、医学部解剖学研究室の皆様、看護学部の関係する先生方に感謝を申し上げます。

解剖見学実習に参加させていただいて、人体について新たな発見や理解が促進したことなど、多くの気づきと学びがありました。特に各臓器の大小、太さや細さなどは、教科書の記載を確認していたつもりでしたが、実物を見るとその巨大さや、反対に微細さ精巧さに驚くことが多く、実習中は目から鱗が落ちる体験を何度もしました。各臓器の形態に改めて疑問を持ち、実習後に調べてみると、例えば肝臓の発育・増大に伴う胃の発達・回旋のために胃のねじれが起こり、網嚢という袋状の空間ができることがわかり、各臓器が関連して発育し、存在しているのだと再認識しました。そして体の中の形態を理解するためには、臓器の発生か

ら把握する必要があることを改めて理解しました。また、看護師は患者さんに注射をしたり、浣腸をしたりなどの処置を行うことがあります。看護学部では、看護基本技術講義にて学生間で実際に注射を打ち合ったり、模擬演習で床上排泄の一連の手技を習得したりするなどの実技訓練があり、その際は参考書や提供された動画などで体内を一生懸命想像し、練習をしました。そこである程度イメージできていると思っていました。ご献体の精巧な神経叢や腸の形態などを観察させていただき、ここまで緻密にイメージを描けていなかったと反省しました。そして、あの練習していた手技は本当にこれらを傷つける恐れのある注意すべき医療行為なのだ、と認識を新たにしました。今後も本実習で得た学びをさらに発展させて、人体の形態機能の学びをさらに深め、看護に生かしていきたいと思えます。

また別の視点では、ご献体いただいたご本人様とご家族様、ご親族様の崇高な献身の精神に驚きと感謝の念を抱きました。なぜ驚いたかという、解剖見学実習前オリエンテーションにて、最短でも

二年はご遺骨がご遺族へ返還されないと伺ったからです。私は昨年末に祖母を亡くしていますが、最期のお別れはお葬式後に火葬場へ行き、遺骨を拾ってお墓に納骨するまでが一連の儀式でした。それなので、二年もご遺骨が帰ってくるのを待つご家族、ご親族のお気持ちを考えて、筆舌に尽くしがたいです。また、ご本人様も見ず知らずの我々に体内を見せるということをご健在時に決断されたのだと思うと、想像を絶します。もし祖母が献体したいと言っていたら、同意できただか自信がありません。それでもご献体がなければ現在の医療の進歩はないのだと考えると、改めてその献身の心に深い感謝をし、今後、看護職として貢献していくことで還元させていただきたいと思えました。

最後に、私たち千葉大看護学部の学生にこのような機会を用意してくださった全ての方々に再度御礼を申し上げます。ありがとうございます。

※用語の解説は28ページを参照してください。

## 「人」と「生」が見えた 解剖見学

榎本 春風

実習直前の講義で献体に関する説明を受ける中で、少なくとも二年間は家族のもとに帰ることが出来ないという事実衝撃を受けました。私が想像していた献体というのは亡くなって数日のご遺体を解剖し、すぐにご遺族のもとにお返しするというものだったため、二年間会えないというのはあまりにも長く、私が遺族の立場だったら「すぐに帰ってきてほしい」、「ゆっくり休んでほしい」という気持ちの方が強く、正直に言うところと献体として提供する勇気が出ないだろうと思えました。また献体に対して私が抱いていたイメージと直前の講義で学んだ内容が異なり、献体への知識がほとんどない状態で解剖見学に臨むことが情けなく、それまで解剖に怖さや抵抗感がなかったのが急に怖く感じ始めました。

解剖実習室に入ると、ご遺体と自分たちとの距離が想像より近く、動揺して少し距離を空けて看護学部の先生の話を開



いていました。また先生であるご遺体の頭から足までがはっきりと見えることが怖く感じ、始めは目を逸らしてしまっていました。私のイメージでは観察する臓器だけが見えるようにシートで覆われていると思っていたのですが、解剖見学を終えた今、全身を見るのができてよかったですと強く思います。臓器しか見えていない状態ではきつとモノとして見てしまっていたと思うからです。その人の顔や全身を見て、そのうえで臓器に触れることで、その方が生きていたことを感じ、献体として提供してくださった方々の思いを大切にしようという思いがより強くなりました。また私は臓器を観察してゆくなかで、観察する部分ではなかったのですがご遺体の先生の手を握りたくなり、手から目が離せませんでした。この手で物を持って料理をして、食事して生活していたんだと思うと、その方の「生」の部分が見えたような気がして、「臓器を観察する」から「人を見る」という意識に変わりました。

私は解剖見学を終えた今でも献体の先生の顔が忘れられません。表現しづらい

のですが、怖いという意味ではなく、生活のふとした瞬間に思い出してハッとさせられる時があります。命を終えても献体として人の役に立ちたいと考えて下さった方なのだなと思うと、これまで以上に一人の命の重さというものを感じ、「これからあなたは命を扱う仕事をする。そのためには意欲をもって学び、正確な知識をもたなければいけない」と、ご遺体である先生に教えて頂いたような気がします。

先述した通り、私は自分の大切な人が亡くなったときに献体として提供できる自信がありません。自分が献体になることもあまり想像できません。このような考えを持つ人は他にも大勢いると思います。それでも私たちが授業で解剖見学をさせていただけるのは様々な葛藤と戦いながらも医学生・看護学生のために提供してくださる方がいるからであり、それは当たり前ではなく、とても凄いことなのだと思えました。

皆様の大切な方を私たちに届け、触らせてくださり本当にありがとうございます。多くの方の思いで今回お会い出来

たことに感謝致します。これから私はたくさんの命に向き合う中で悩むこともあると思います。その時に命の大切さを学んだ原点として、今回の解剖見学で出会ったご献体の先生を思い出し、先生に恥じない看護をしていきたいです。





図1 新解剖実習室



# 解剖を最高の環境で学んでもらうために！

環境生命医学講師 鈴木 崇根

「医学部がとうとう新棟になる」、と聞いたときにまず私の脳裏に浮かんだ事は、これまでの経験を総動員して最高の解剖環境を構築したい！という事でした。献体者のお体を良い環境で長期保管したい。学生が解剖に集中できる安全な実習室を作りたい。医師が患者の手術をするのと同じような環境でトレーニングを受けられる手術室を作りたい。旧医学部でも遺体保管室、解剖実習室、CAL（クリニカルアナトミミラボ）手術室はありましたが、古い部屋を少しずつ改装して使用していたため妥協して使っている部分もたくさんありました。今回、会員の皆様がお亡くなりになった後に数年間お住まいになる（？）医学部新棟の環境をご紹介します。

## 遺体保管室

保管庫の種類は三タイプあります。通常のホルマリン固定された遺体用の常温保管庫百体分、薄いホルマリン固定とも言えるThiele法で固定された遺体用の冷蔵庫六十体分、そのまま凍結して保管する遺体用の冷凍庫三十体分で、合計百九十体の遺体を保管できます（図3と図4）。旧医学部では、昭和四十年頃の保管庫を皮切りに、五十年頃、平成に入ってから、と違うメーカーの保管庫が徐々に増設されたため、保管庫によって遺体を乗せるトレーのサイズが違いました。そのためご遺体を移動させる度に運搬用のリフトのサイズを頻繁に交換する必要がありますが、事情を知る技術職員しか扱えず非常に手間がかかりました。今回、

異なるタイプの保管庫でもすべて同じトレーを使えるように特注しました。リフトの設定は一つに固定して使える事になり、C A Lを使う医師達でもご遺体の出し入れが容易にできるようにになりました。これで技術職員の負担も軽減します。

## 解剖実習室

実習室を設計するにあたり考えたのは、千葉白菊会五十周年記念事業で頂いた画像供覧システム（二十七インチのモニターをすべての実習台に取付）を使えることを大前提としました。旧医学部では、遺体から発する刺激性のあるホルマリンガスの排気システムは、後付けでした。実習台毎に排気用のコンプレッサーを載せて天井裏まで空気を吸い出す方式でしたので、動作音が少しうるさいのが不満でした。また実習台毎に天井まで伸びる排気ダクト（三十二本！）の為に視野も悪



図2 旧医学部の解剖実習台



図3 常温保管庫



図4 手前が冷蔵庫、奥が冷凍庫

かったのも今ひとつでした(図2)。そこで新棟では排気ダクトはすべて床下配管とし、排気用コンプレッサーも部屋全体で一つにして実習台から出るノイズは空気を吸い込む音だけにしました。画像供覧システムへ画像を配信するHDMIケーブルをワイヤレス化し、広々とした視野を確保しました(図1)。そのお陰で天井から合計で六つの六十五インチ4Kモニターをぶら下げ、実習台モニターと合わせて二系統で情報を掲示できるようにしました。

皆様から頂いた画像供覧システムには、解剖実習の際にCTやMRI画像で人体

がどのように見えるのか、学生にクイズ形式で様々な臨床画像を見せることに使っています。実習室が静かになったので、同じ班のメンバー同士で議論が容易になります。クイズの答えを各実習台に設置したiPod touchを使って回答してもらい、私たち教員のパソコンで学生の理解度が瞬時にわかります。実習前に何が分かかっていて、何がわかっていないのかをハッキリさせてから解剖に取り組む教育手法は学生自身の主体性が増し、高い教育効果を発揮しています。本当にご寄付に感謝しております。



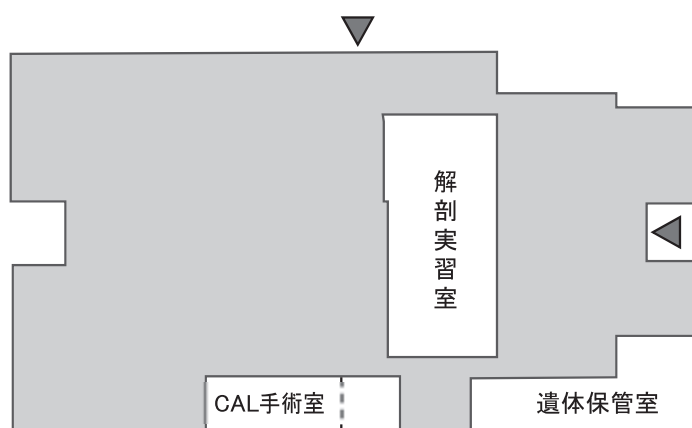
## CAL手術室

昨年度、厚労省、文科省、千葉県から支援を頂くことができ、総額八千万円の外部資金で新CALを作り上げる事ができました。手術室は実際に病院の手術室を設計している業者にサポートしてもらい、何度も打ち合わせをしました。普段は広い手術室に手術台六台が整然と並びますが、移動式の壁で二部屋（四台と二台）に分けて、二つのプログラムを実施することもできます（図5）。また天井からの無影灯三台と高性能なビデオカメラ（4K）一台を天井から吊り下げています。手術台二台に対して一つの六十五インチモニターが壁に取り付けられおり、手術や解剖のスライドを閲覧したり、天井のカメラで撮影した講師の模範手術を皆で見ながら目の前のご遺体を解剖させて頂くことも可能となりました。これまでは、模範手術は近くにいる受講生しか見ることができなかつたのですが、新しい実習室では六台の手術台に分散したままで見ることができ、国内トップクラスのゴッドハンドとされる医師の技術、そしてそ



図5 新CAL手術室

の手術に必要な解剖を手取るように理解できます。既に六月から毎週の様セミナーを開いています。参加した外科医達はこのトレーニング専用設計されたCALの設備と、医師が解剖することに賛同し、無条件・無報酬の精神で献体してくださったご遺体の先生方の存在に非常に感銘を受けておりました。



医学部総合研究棟1階

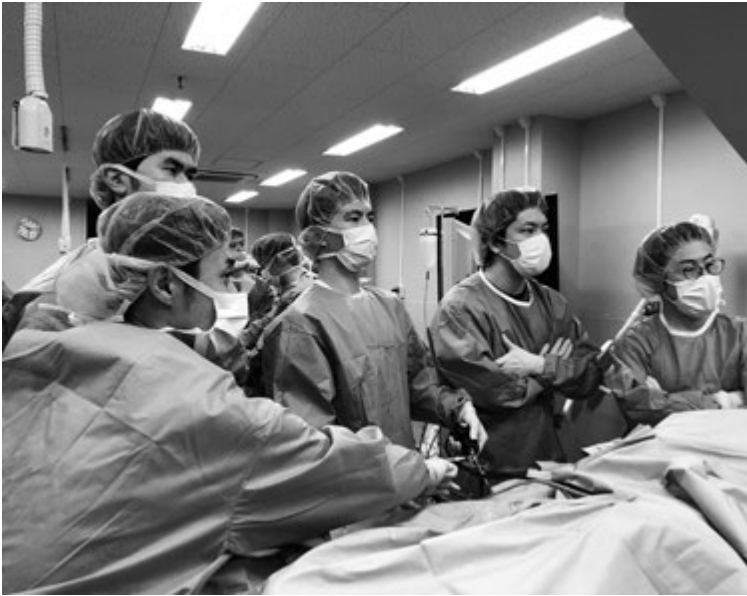
医師が解剖するというCALのコンセプトは急速に広がりつつありますが、未だ半数の医学部では認められていません。私たちの活動が全国の医学部へ影響を与え、一人でも多くの患者のために医師が臨床解剖を学べる時代が来ることを祈っております。今後ともご支援の程、よろしくお願いいたします。

# CAL参加者の感想文

筑波・千葉Cadaver Workshopに参加

筑波記念病院 整形外科 清水 知明

この度、筑波・千葉Cadaver Workshopに参加させて頂きました。今年で最後という歴史ある千葉大学医学部棟に集合し、まず解剖学講座の成田都先生から倫理講習を受けました。その中で今回の実習は御献体いただいた方々・御遺族の崇高な



意志のもとに成り立っていることを再認識し、一秒も無駄にすべきではないと身の引き締まる思いでした。実習は三グループで行われ、私は國府田先生・古矢先生に御指導賜り、午前は胸腰椎前方アプローチを、午後は胸腰椎後方アプローチを行いました。基本的な解剖を再確認しつつ、普段の手術では絶対に把握できない範囲まで詳細に解剖することができました。これは、脊椎脊髄のみでなく大血管や胸腹部臓器近傍の解剖理解が求められる脊椎外科医を目指す私にとって、この上なく貴重な経験となりました。今回の実習への感謝の意を忘れることなく、今後の臨床や脊椎疾患に苦しむ方々への治療のために活かしていきたい所存です。

## クリニカルアナトミーラボ研修を終えて

千葉大学医学部附属病院  
呼吸器外科 荻田 涼

今回、クリニカルアナトミーラボでの手術研修をさせて頂きました。コロナという状況下のため、外部からの参加者は叶いませんでしたが、多くの手術室看護師、病棟看護師にも参加いただきました。心より感謝いたします。

我々若手医師は、日々の臨床現場で実際に手術の現場に立ち会いますが、手術

手技や解剖の細部などは、教科書や論文などでは学びきれない範囲と考えます。今回のラボで実際に臓器や血管に触れ、立体的構造とその感触、周囲臓器との位置関係をじっくりと観察・学習することができ、外科医として大きな成長につながるものと実感しました。この経験や学びを診療に活かし、今後患者の皆様へ還元したいと思えます。

最後に、このような貴重な機会を与えてくださった白菊会の皆様、CAL関係者の皆様、ご指導してくださった先生方、ご協力いただいた看護師の皆様へ厚く御礼申し上げます。

CAL利用実績（参加人数）



## 整形外科 Cadaver Workshop in Chiba 〈Knee〉～Basic〉に参加し

千葉大学医学部附属病院  
整形外科専攻医 吉本 拓真

この度、Clinical Anatomy Lab (CAL) で開催された整形外科 Cadaver Workshop in Chiba 〈Knee〉～Basic〉に参加させていただきました。千葉大学整形外科スポーツグループの先生方の指導の元、膝の関節鏡手技から解剖に至るまで、普段の医療現場では得難い経験をすることができました。



私は整形外科専攻医になったばかりで手術の経験も浅く、特に専門性の高い関節鏡の手技などはなかなか行う機会もありません。今回のCadaver Workshopでは専門医の先生の丁寧な指導の元、関節鏡も含む様々な手技を経験でき、大変意義深い時間となりました。このような貴重な時間を持てたのは、ご献体いただきました白菊会会員の皆様のおかげです。今回の経験を活かし、臨床現場で整形外科患に悩む多くの方々の助けになりたいと思います。

末筆ではありますが、医学の発展のため、ご献体いただきました白菊会会員の皆様およびご遺族の方々に心より感謝申し上げます。また、CALの鈴木崇根先生、ご指導いただいた千葉大学整形外科スポーツグループの先生、講師の皆様にご場をお借りしてお礼申し上げます。

## 整形外科 Cadaver Workshop in Chiba 〈Hand and Elbow〉に参加し

松戸市立医療センター  
整形外科医 船石 裕樹

二〇二〇年九月二十六日に千葉大学医学部にて開催された整形外科 Cadaver

workshop in Chiba Hand and Elbow に

参加させていただきました。開催前、数日間に渡り行われたオンライン講義で解剖・手技について解説いただき、十分な理解の上でご遺体と向き合うことができました。しかし実際に解剖させていただきましたと勝手が違いました。自分で展開しつつ組織を同定していく難しさを改めて痛感し、手術を進めていくにつれて自分が考えていたものと違う組織であることが判明することを体感し、解剖の理解を深めることができました。一日という限られた時間の中でこれからの診療で遭遇するであろう骨折、神経・腱移行などの手技を数多く自らの手で経験できることや実際の手術では確認が難しく解剖書でのみ確認していた人体の筋肉、神経、靭帯の構造・走行を解剖し、自分の目でしっかりと確認する機会はこのCadaver workshop がなければ難しく、これからの診療を行う上で貴重な財産となりました。このような貴重な機会を用意していただき、事前講義の準備から当日の指導に至るまでご尽力いただいた先生方、スタッフの方々に心より感謝申し上げます。そして最後になりますが御献体頂きました白菊会の皆様と御遺族の方々に心より



感謝申し上げます。御厚意に報いることができるよう、今後の診療に活かしていきたいと考えております。ありがとうございます。ございました。

## CAL seminar Programに参加

千葉大学工学部 医工学コース

上田 玲央斗

先日私は献体して下さったご遺体を用いたCAL seminar Programに参加し、見学させていただく機会がありました。今回私は、主に脊椎の構造と、脊椎の除圧と固定についての手術の学習をさせていただきました。私は医学研究者であり、医師ではありません。手術機器等の開発を通して医療のさらなる発展を技術的側面からサポートしていくことを目標として研究に従事しています。従ってご遺体を使わせてもらって学習する機会は初めてであり、一生忘れることができない経験をさせて頂きました。

このセミナーの初めに、CAL (Clinical Anatomy Lab) を管理していらっしゃる鈴木崇根先生がされたお話で感銘を受けた内容がありました。鈴木先生は献体登録をされていた千葉白

菊会会員とお話した場面で、「外科医が解剖するときにはより多くの筋肉がついていた方がいいのか」といったことを尋ねられたそうです。「筋肉がついているとより通常の患者さんに近い状態になるので外科医は喜びます」と返されました。すると会員さんは、「それなら死ぬギリギリまでウォーキングを頑張らないとね」とお答えされたというのです。

献体を決断されるだけでも非常に尊い行動です。そ

れなのに、学習や研究の際により好条件なコンディションに整えようとするお心構えには頭が上がりません。私はその奉仕の精神を無下にしないように努めてまいります。またご献体された方から託されたもの



を研究の発展につなげるのは、ご献体を使わせていただいた者の責務であると考えております。これからまたご献体を使わせていただく機会があれば、今回以上に礼意を尽くして学習・研究に励む所存でございます。ご献体を提供して下さったご本人様並びにご遺族の方々、CAL seminar Programの関係者の方々に、改めて御礼申し上げます。

# 第94回千葉大学医学部解剖慰霊祭



昨年は新型コロナウイルスによる緊急事態宣言の渦中により、中止の選択をせざるをえなかった「千葉大学医学部解剖慰霊祭」でしたが、本年は六月五日（土）午後一時から、るのはな記念講堂にて、ご遺族と一部関係者のみの参列で執り行うことができました。例年であれば、医学部をはじめ看護学部の学生たちや教職員、病院関係者も多数参列する式典ですが、今年はコロナ禍での挙行ということで、密を避けるためにこのような形での開催となりました。

梅雨入り前するときおり日差しも感じられる薄曇りの中でしたが、参列くださったご遺族の方にとっては、やっと迎えに来ることができたこの日が唯一無二の日であること、そしてこのしっとりとした空気感も、いつになく参列者が少ないことによるしんとした会場の雰囲気も、このコロナ禍であつてこれで良しとする特別の式典となつたように思われました。

開式の辞に続き、今年度解剖にお役立ちくださいました一〇四柱の御芳名奉読と御芳名録奉納ののち黙祷、千葉大学の医学部長と大学長による追悼のことは、来賓挨拶、そして学生代表のことは述べられました。式典の規模は小さくなくても、そこにはなんら今までと変わることはない、献体してくださった方とそのご遺族への厚い敬意と感謝の気持ち十分以上に伝わってくるそれぞれの「ことば」でした。

## 感謝を込めて 「献花」



大澤会長は  
白菊会を代表して



学生代表から



ご遺族の皆様から





## コロナ禍の開催 ご遺族とご来賓のみの参列で



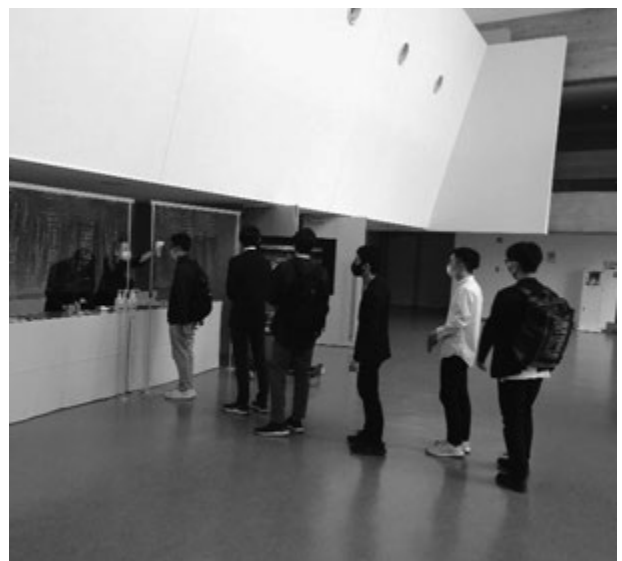
ご遺骨は、白菊会が用意した風呂敷でお包みます



ご遺骨返還式（右端はご遺骨をお渡しする森千里教授）

週が明けての月曜には、慰霊祭への参列が叶わなかった学生と教職員、総勢一五〇名以上による献花を、これも密を避け二回に分けて執り行いました。式典の形は変われど、医学の進歩のためにお体を提供してくださった献体者とそのご遺族の方々への多大なる謝意に寸分の揺るぎはありません。その善意ある方々の心の内にあった思いを連綿と感じ続けていくこと、そしていただいた貴重な経験と知識の習得をこれからの研究や治療へと活かしていくことが、先人たちが医療を支え続けている根幹となってきたのだという事に改めて気づくことができました日となりました。

（森岡）



学生献花（6月7日）  
受付で検温とアルコール消毒をしていました



## 追悼の言葉

千葉大学学長 中山 俊憲



第九十四回千葉大学医学部解剖慰霊祭にあたり、謹んで御霊前に追悼の意を表わし、御霊（みたま）のご冥福を、お祈り申し上げます。

近年の医学・医療の進歩は著しいものがあります。その進歩の多くは革新的な科学技術の開発によりもたらされています。特に、二十世紀後半に遺伝子操作技術が開発されると医学・医療分野ではその新技術をいち早く研究活動に取り入れることにより、これまで原因が不明であった疾患の発症機序を分子や遺伝子のレベルで明らかにすることが出来るようになりました。そして二十一世紀に入り、この様な基礎医学研究の成果が積極的に臨床研究に応用されるようになり、これまで不治の病とされていた疾患にも新しい治療法や治療薬が次々と開発され新しい治療効果が見られるようになってきています。

他分野との融合研究なども進んでおり、最新の工学技術を応用した医療機器の進歩も著しいものがあります。さらに最近

では人工知能・AIが進化してきており、病気の診断は医師に代わってAIが行う時代がすぐそこまで来ています。そして将来は、IPS細胞を用いた再生医療技術などの進展と普及により、私達の健康寿命が大きく改善されていくことでしょう。

このような時代の変化によって、医師に求められる能力も著しく多様化し、かつ専門化してきています。そのため医学部における教育においても、最先端の医学・医療の知識や技術ばかりでなく、他分野の知識や技術を教授することが必要となってきています。しかし同時に、医療技術が進むほど、医師養成の原点である「深い人間愛に基づく生命の尊厳と医の倫理」を教授することの重要性も大きくなって来ています。

千葉大学医学部では、病める人々の苦しみを理解できる医療人の育成を基本として、種々の疾患の新しい治療法の開発を目指し、優れた基礎医学研究者や臨床研究者の育成に向けた教育を継続してきております。そのような本学における医学教育の中でも、賜りましたご遺体により「解剖学実習」は、最も基礎的な、そして最も重要な教育科目となっております。医学生は「解剖学実習」により、複雑な人体の構造を正確に学ぶとともに、教科書からは決して得られない

「生命の尊厳」や「医師としての使命感」を深く心に刻み込むことになるからです。

さらに近年では、医師、薬剤師、看護師や保健師などの医療人養成にむけた教育として、職種間の相互理解に向けた「Inter-professional Education」が行われるようになっていきます。千葉大学でも、将来医療チームを組むことになる医学部、薬学部、看護学部の学生に対して、一年生の段階から「Inter-professional Education」を行っていきます。その一環として、看護学部の学生には「解剖学実習」を見学実習としています。

人生の締めくくりとして、「解剖献体」に自らを捧げられたみなさまの尊い志に、心からの敬意とともに感謝の意をお伝え申し上げます。そして、ご献体を支持していただきましたご家族の皆さまに、心からの御礼を申し上げて、追悼のことばと致します。



学生代表

## 感謝の言葉

医学部三年 村松 彩水



はじめに、約三か月に及んだ肉眼解剖実習が昨年十二月二十三日の納棺式をもちまして、無事に終了することができましたことを、ここに御報告いたします。初めての実習の日、祖母が仏壇の前で、「あみちゃんが今日、医師として大きな一歩を踏み出します」と祖父に報告していた姿が懐かしく思い出されます。とても多くの知識を得ただけでなく、医師になるという自覚が高まり、精神的にも成長できた三か月でした。

実習が始まる前、私は献体という尊いご遺志に応えられるのか、不安でいっぱいでした。実際に初めてご遺体のお顔を拝見したときは、その年に亡くなったばかりの大好きだった祖父の顔が思い起こされ、一瞬時が止まるような感覚がありました。献体という行為の尊さをひしひしと実感するとともに、頂いたこの機会を無駄にせず、学び尽くさなければと背筋が伸びる思いがしました。

「献体してくださった方々は学生にとって最初の患者であり、たくさんの方

とを教えてくださいださる先生である」。私たちは、このような考えのもと、献体してくださった方のご遺体を「先生」と呼んでいます。実際に、実習が進むごとに献体してくださった方が私を教え導いてくださっているような感覚になり、だんだんと不安はなくなっていきました。人体の複雑さ、精密な美しさ。解剖は、毎日が驚きの連続でした。教科書通りのことは、なにひとつありませんでした。それらに感動するたびに、この方の尊い献体のご遺志なくしては学び得なかったことだと感謝の気持ちが高まりました。

実習をすべて終えた数日後、納棺式が行われました。ご遺体を自分たちで納棺して、学生全員で実習室を隅々まで掃除した後、献花をして最後の黙祷を捧げました。献体してくださったこと、多くの学びを与えてくださったこと、このような大変な状況下で無事に実習を終えられたことなど、さまざまなことへの感謝の気持ちでいっぱいでした。また、実習室を掃除しながらふと、この場所でたくさん先輩たちが私たちと同じように実習してきたのだなと思ひ、献体してくださった方々と千葉大学医学部との長い歴史を感じました。自分たちがその歴史の一部になったことや、医師になる為に多くの方々を支えられていることを実感し、今でも胸が熱くなります。

私は献体してくださった方の生前の姿を知りません。どんな人生を生き抜いたのか、何が好きで、どんなふうに笑う方だったのか、もう知ることは叶いません。しかしこの方は、実習をとおしてたくさんの方々に証を私たちに語りかけました。それらをひとつひとつ確かめながら、解剖の班員たちや教員の方々とさまざまなことを話し合いました。どんな人生を生きられた方だったのかを思いを馳せ、将来この方のような患者を担当したらどのような治療を行うのかを考えました。私の最初の患者となってくださり、人生の先生として私を優しく教え導いてくださった方のことを、私は生涯忘れません。

最後に今一度、献体してくださった方々ならびにご遺族のみなさまに心より感謝申し上げます。ご自分のお身体を提供するという決断、そしてその決断を家族として受け入れるということは、とても勇気がいることだったと思います。三か月間の実習では、このご恩に十分に応えられたとはいえないかもしれませんが、みなさまの想いを胸に、私たちはこれからも勉学に励み続けます。よい医師となつて医療に貢献することで、少しずつこのご恩をお返ししていけたらと思っています。

本当にありがとうございました。



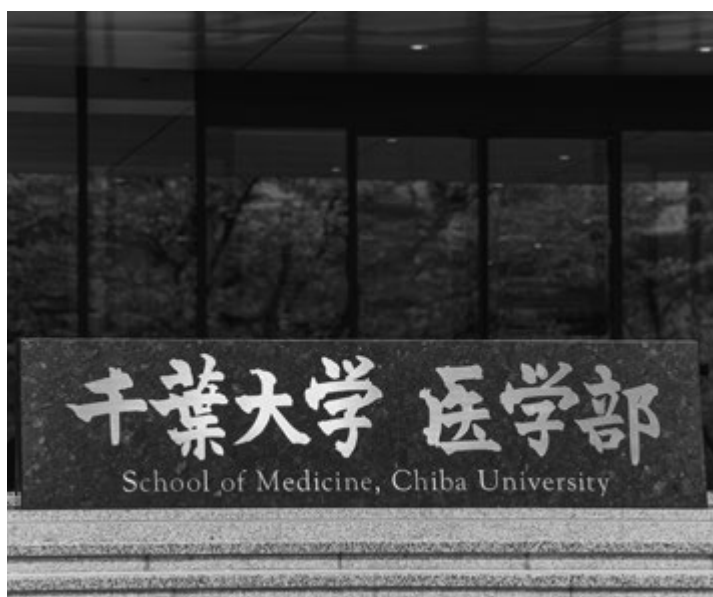
# 医学系総合研究棟が完成

## 千葉大学亥鼻地区事務部

千葉大学医学部は、明治七年に千葉町に設立された共立病院が、県立千葉医学校・附属病院、第一高等学校医学部、千葉医学専門学校、千葉医科大学と変遷を経て、昭和二十四年の国立学校設置法により設置された千葉大学の医学部として現在に至ります。場所は千葉大学亥鼻キャンパス（千葉市中央区亥鼻）にあり、同キャンパスには医学部のほか、附属病院、薬学部、看護学部、真菌医学研究センターなど医療系の部局が結集しています。

従来の医学部の学舎（医学部本館）は昭和十一年に完成した古い建物でしたが、建築から八十四年が経過し老朽化が進んだため、新たに十一階建て四万平方メートルの医学系総合研究棟に移転となりました。この医学系総合研究棟は低階層に講義室、実習室、グループ学習室、福利厚生施設等を配置し、五階から十一階に

は基礎系・臨床系の研究室や実験室、競争的研究スペース等を機能的に配置するなど研究内容に応じた効率的利用ができ、附属病院とも廊下で接続されるなど、教育研究活動の効率化と飛躍的な発展が期待されています。





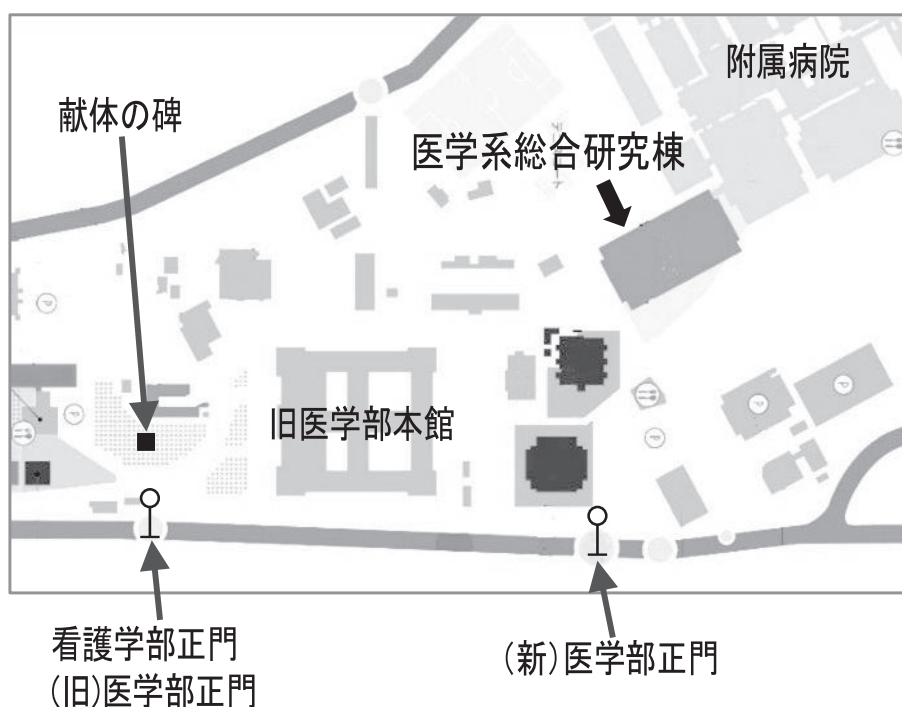
# 第11回白衣式 令和2年11月27日(金)開催



白衣式は入学後四年間にわたる臨床前教育を受けてきた医学生がいよいよ医師となるための本格的なトレーニングを開始することを皆で祝福すると共に、医学生自身が医療者の一員として社会に貢献する立場となる自覚を新たにすることを目的としています。ゐのはな記念講堂にて令和2年度医学部5年生119名の白衣式が行われました。

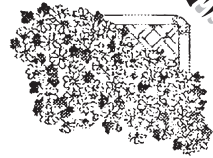
(写真提供：フォトチョイス)

※ バス停の場所と名前が変わりました。白菊会事務局に御用の方は今までより1つ先のバス停（医学部正門）でお降りください。



## 白菊の広場

## 私と献体



令和二年度の入会者は六十八名、新会員の決意書をいくつかご紹介します。

## 知人の献体に触発され

我孫子市 田口 馨

近所の一人暮らしで生活をされていたご年配の方が亡くなった時、たまにいられていた身内の方から、千葉大学さんへ献体されたことをお聞きし、初めて知り合いの方で、そういう方がいらっしやるのを知り、素晴らしいと思ったのと同じ時に（良い意味で）ショックを受けました。高齢の方でも世のためになりたいという考えを持ち、実現されている。私も是非、後に続きたいと思うに至りました。

私は今六十四歳、いつまで寿命があるかわかりませんが、是非献体したいと思っています。来年、高齢者の仲間入りをしま

す。今迄、臓器提供を志してきました。まもなく高齢者となる今、献体させてください。

## 医師を志す方のために

館山市 藤原 忠愛

この世に生を受けて、天寿を全うすることなく病気や怪我で生命を失う人の無念や、親や親族のことを想う時……。

自分が一生を終え、火葬し埋葬される前に、これまでお世話になった社会や多くの人々の恩に少しでも報いる為に、そして医師を志す方々の一助になればと思ひ、献体したいと決めました。

私の思いを叶えてくれるようお願い申し上げます。

## 社会貢献の一つとして

八街市 高幣 義嗣

高幣家は家族全員がキリスト教を信仰していることもあり、死に対する捉え方が仏教信徒とは異なっています。

特に死後の肉体は塵に返るとの考えから肉体自体には特別な意味を持ちません。

生前での生活において、肉体を健全に保つ事の方が重要であると考えています。

そのような考えのもと、父母は、医学の発展を願ひ、死後においても肉体が活用できるのであればと献体登録をさせて頂きました。母は既に他界し、献体に供されています。

私も六十歳を迎え、献体登録出来る年齢に達しましたので、父母同様に献体登録させて頂き、社会貢献できればと願う次第です。

## いつかは薬学生も

野田市 岩崎 明美

今まで一度も、ボランティア等、社会に貢献した事がないまま過ごして来ましたが、アイバンク等、死後にでも何か役立つことができたら登録してみたいと思っていました。

四十歳を過ぎてから乳がんになり、二度の再発を繰り返して三度の手術で両乳房を摘出しました。放射線治療だけで抗がん剤も使わず、最後の手術から十五年近くたち、今でも何の不自由なく生活できていることは、本当に医学の発達のおか

げと思っています。

この春より娘が薬剤師となり就職します。彼女の勉強は、多くの動物の命のうえに成り立っています。薬学生も一度、人体解剖を経験するととても勉強になるのに、という言葉を聞きました。現在は献体希望者も増えていると聞いています。いつかは薬学生にも解剖の機会が訪れること、もしそれが叶わなくても、これからの医学の発展に自分が少しでも役に立つなら、と思い、献体を希望しました。

### 一生懸命生きて来ました

市川市 阿部 ちづ代

若い頃から死んだら献体しようと思っ  
ていました。

此の世に生を受けて七十一年余り……  
楽しい事、悲しい事、嬉しかったこと、  
悔しかったこと、いろいろありました。

それでも一生懸命生きて来たつもりです。  
悪い事もしなかったけれど、特別に良  
い事もしなかった。最後位、人の役にた  
てれば良いと決めました。

又、夫が軽い認知症にかかっています。  
頼れる人が側におりませんので、自分が

元気なうちに整理をしておこうと思っ  
ています。未だ元気ですが、余命一年とい  
われました。(ガンのため)

今のうちに、夫が一人でも大丈夫なよ  
うにケアプラン作製等、サポートセン  
ターの方にお願ひしております。  
どうぞ宜しくお願ひします。

死ぬのは残念だけれど

この世に生まれてよかった



### 千葉白菊会総会のお知らせ

第四十一回千葉白菊会総会を

次の通り予定しています。

記

日時…令和四年六月(日付は未定です)

会場…千葉大学看護学部

なお、会員の皆様へは、令和四年  
四月に改めてご案内を差し上げます。

### 会員からのお便り

二年続けて総会が中止となり、会員同  
士、またボランティア学生との交流も出  
来ずに心配していましたが、お元気な様  
子が伺えるお便りにほっとしています。

千葉市花見川区 浜辺 ますみ

今年も二〇二一年の手帳をお送りくだ  
さりありがとうございました。一年が無  
事に過ぎるのだなあと、しみじみ思っ  
てしまいます。思いがけないコロナ禍の現  
在ですので、なおさらの思いです。

今年には二月に九十九歳の義母を見送り、  
九月には新しい命、六人目の孫を迎えま  
した。去る命、迎える命、それぞれに感  
慨深いものがある年になりました。

行動が制限され、三月以降、書き込み  
が激減した二〇二〇年の手帳です。二〇  
二一年の手帳には、今までのように多く  
の予定を書き込んで持ち歩きたいもので  
す。

寒い季節に向かいます。事務局の皆様  
にはお体を大切にお仕事くださいますよ  
うお願ひ申し上げます。

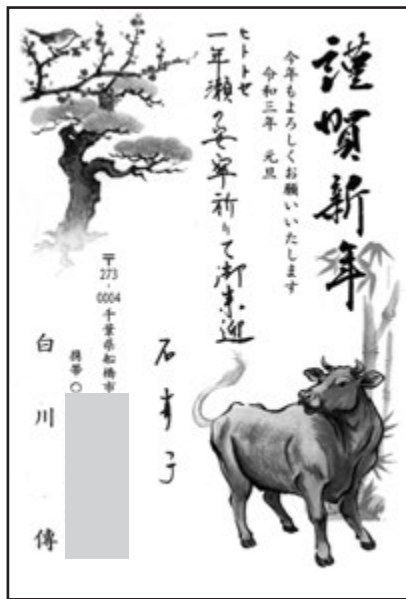
令和二年十一月



千葉市若葉区 飛世 洋子  
 今年も予期せぬ苦難な年でした。(公私共)

先日は来年の手帳を送って頂き、ありがとうございます。楽しいスケジュールで埋められる年でありたいですね。日頃のお手数に心より感謝します。  
 令和二年十一月

船橋市 白川 傳



千葉市中央区 日野 桂子

先日は「解剖学への招待」をお送り頂き有難うございました。医学を志す方々のお役に立ちたいという気持ちは今も全く変わりませんが、今回この本を読ませて頂き、献体の本当の意味を理解できて良かったと心から感じています。

令和三年三月

いすみ市 所 久子  
 拝啓

毎年丁寧なる御連絡を戴き有難うございます。会のお便りが届く度に拝読させて頂いて居ります。平成二十七年に申し込みました。大手術をして退院し、市役所でデイサービスを心配して頂き入所、週二日通って居ります。

農業で一生過した私です。デイに行き、立派な職員に出会い、又、学ある老友に恵まれ、急に学ぶ事を知ったのです。友に学び、辞書で学び、毎日が楽しく暇のある老後に感謝して居ます。デイの白壁に自分の拙ない歌が貼られると、今まで考へられない気分になります。

知らぬ事ばかりの自分が(恥かしく)友達、職員に教えて頂き、又辞書で知り、自分の心が豊かになった様な気がして嬉しくなり、長生き出来て良かったと思っ居ります。

六月で八十九才になります。いつか皆様のお役に立てる事を信じ毎日過して居ります。

令和三年五月

長生郡白子町 松本 和夫

お世話になっております。一昨年初めて総会及び慰霊祭に参加させて頂き、感銘を受けました。コロナウイルス禍の日も早い終息を願っておりますが、事務局の皆様におかれましては、計画等、予定通り進めることが出来ずご苦労も多い事かと察します。私もワクチン接種予定日が決まり、それまではコロナ陽性にならない様、また日頃より、自身、時が至った場合には成願が叶う様、それなりの生活を心掛けているつもりでおります。事務局の皆様もどうかご自愛なされます様に。

令和三年六月

**やってみよう！ 認知症予防クイズ**

中央の□(四角)に漢字をひとつ入れて熟語を4つ作ってね。  
 ヒント：①は小学1年、②は小学2年で習う字だよ。  
 (答えは53ページ)

①

	養	
学	□	業
	水	

②

	分	
作	□	元
	賃	

おまけ

出発点を見つけて時計回りに読むと6文字の言葉が…  
 ヒント：きっと、みんなも持っているよ。



## 会員の不安を解消

## 献体から 遺骨返還まで

死亡の連絡  
043-222-7171



献体の引き取り



献体の防腐処置



解剖学実習・CAL



納 棺 式



火 葬



遺 骨 返 還

献体は、ご家族（連絡者）からの連絡が頼りです。最近、献体登録をご家族が知らず献体出来なかった会員が増えています。皆様もご注意ください。

大学から委託された葬儀社の車がお迎えに行きます。死亡診断書のコピーと埋火葬許可証を用意してください。引き取り時、お棺は不要ですが、葬儀等で使用された場合はそのままでもかまいません。

腐敗を防ぐ為に献体には防腐処置が施されます。その後、ライヘパック（ご遺体保存用袋）で密封されて、縦横45cm、奥行き200cmの遺体保管室の中で解剖学実習を待ちます。ここから解剖学実習が終了するまで、献体は生前の名前ではなく番号が割り当てられます。

学生には献体者の個人情報は一切知らされません。解剖しながら病状などを推測することも勉強になっています。なお、千葉大学では、献体は医師の手技向上のためにも使用されています。（CAL）

解剖学実習最終日、学生たちは心を込めて献体をお棺に納め、自費で用意した花束を供えて冥福を祈ります。お棺は大学で用意しています。

納棺後、献体は番号から本名に戻り、大学職員が付き添って、千葉市斎場で火葬されます。火葬に係る費用は大学が負担しています。

大学のご遺骨返還式、又は遺族の希望する日に遺骨が返還されます。献体は、大学がきちんと管理していますので他人の遺骨が返還されることは絶対にありません。

# 令和2年度千葉白菊会会員移動状況

令和2年4月1日～令和3年3月31日

単位：人

	令和2年度	累計(1966年～)	備考
入会者数	68	5,822	
献体数	84	2,568	
不献体	8	489	死亡した時に献体できなかった数
退会者数	14	640	
県外転居者数	5	211	新住所に近い献体の会を案内
在籍会員数	1,914		

※2年度も献体登録を家族が知らなかったり失念していたりして、献体が叶わない例が6件発生しています。大学への連絡者にはきちんと伝えておきましょう。

## 《千葉白菊会調べ》

### 献体時の年齢は？

会報に掲載された成願者名簿をもとに、会員の献体時の年齢を調べました。平成24年10月以降の最年少献体は、平成28年度の58歳（60歳での入会を待機していた方で、申し出により緊急入会、2週間後に献体された）、最高齢の献体は108歳、平均年齢は85～88歳となっています。

なお、100歳以上で献体される方も増えており令和2年度は8名でした。

単位：人、歳（表は令和3年6月 大澤作成）

期間	成願者数	最小	最高	平均	備考
平成24/10～平成25/9	81	67	105	86	
平成25/10～平成26/9	71	65	103	86	
平成26/10～平成27/9	87	64	105	86	
平成27/10～平成28/9	88	64	101	86	
平成28/10～平成29/3	51	58	104	85	※6か月間
平成29/4～平成30/3	66	61	108	85	
平成30/4～平成31/3	78	63	106	88	
平成31/4～令和2/3	80	67	107	87	
令和2/4～令和3/3	84	65	108	87	



# 寄付者名簿

(平成三十一年四月～令和二年三月)

次の方々から千葉白菊会へご寄付を頂きました。ご報告かたがた心より御礼申し上げます。ご寄付頂きました金品は本会の運営に使わせて頂きます。

芳名	住所	芳名	住所
鈴木孝雄様	市川市	埴由紀子様	四街道市
中島フミ様	千葉市	田中渉一様	千葉市
弓削とよ子様	東京都	成次齋様	成田市
水野なつ子様	柏市	伊東都様	八千代市
吉田富勇様	印西市	高橋廣司様	千葉市
田中明様	岩見沢市	三好多津様	東金市
鎌田好枝様	茂原市	匿名希望	千葉市
飯田格・美智子様	船橋市		
高橋和夫様	君津市		
飯島保子・耕造様	千葉市		
渡辺米様	船橋市		
依田りゑ子様	埼玉県		
長谷川英夫・八重子様	木更津市		

現金・切手 内訳

現金 四七〇、〇〇〇円  
切手 一四、四六九円

## お知らせ

### ご寄付の際に銀行振込が使えるようになりました

これまで皆様からのご寄付は現金書留や総会会場での受け取りとなっておりましたが、この度専用の口座を開設いたしましたので、併せてご利用ください。

皆様からのご寄付は本会の運営のみならず、解剖学実習にも使わせていただいております。

時節柄、口座名は明記いたしませんので、お手数ですが詳細につきましては、事務局までお問い合わせ下さい。

役員紹介

千葉白菊会の役員は二年任期で令和三年度は任期中ですが、県外に転居された酒井徳子理事が退任されました。また、鈴木和男副会長が体調により監事となり、青柳信子監事が副会長に、役割が交代致しました。

又、大学の人事異動により、もう一人の監事が山田健治氏から吉澤智之氏に変わり、事務局も事務局長が袖山洋志氏から小林誠氏へ変わり、日頃の窓口対応の事務局職員も伊藤恵子氏が退任し、野上美咲さんと田中敏江さんが務めます。

当面、不慣れな点があるうかと思いますが、一所懸命務めますので何卒よろしくお願いいたします。  
(大澤)

訃報

平成二十八年から四年間、理事を務められた野村烈男さんが八月二日成願されました。

出版の仕事をされていた野村さんは、会報編集の先頭に立ってノウハウの蓄積に尽力されました。ここに謹んでお悔やみ申し上げます。

大澤國昭会長



鈴木崇根副会長



青柳信子副会長



小宮山正敏理事



水野佳子理事



星川真一理事



森岡里佳子理事



成田都理事



鈴木和男監事



吉澤智之監事

令和3年度役員名簿

令和3年7月1日現在

所属	役職名	氏名	備考
役員	会長	大澤 國昭	習志野市
	副会長	鈴木 崇根	千葉大学医学研究院 環境生命医学講師
	//	青柳 信子	千葉市緑区
	理事	小宮山 政敏	千葉大学看護学研究院教授
	//	水野 佳子	八千代市
	//	星川 真一	茂原市
	//	森岡 里佳子	千葉市中央区
	//	成田 都	千葉大学医学研究院 環境生命医学助教
	監事	鈴木 和男	柏市
//	吉澤 智之	千葉大学亥鼻地区事務局 管理企画課会計第一係長	
顧問	千葉大学医学部	松原 久裕	千葉大学医学部長、医学研究院長
	//	森 千里	千葉大学医学研究院 環境生命医学教授
	//	小川 明宏	千葉大学亥鼻地区事務部長
	千葉白菊会	武者 廣隆	前国立病院長
	//	千葉 胤道	千葉大学名誉教授
事務局	事務局 長	小林 誠	千葉大学亥鼻地区事務局 総務課副課長(企画担当)
	事務局 職員	野上 美咲	千葉大学亥鼻地区事務局 総務課総務第一係
	事務局 職員	田中 敏江	千葉大学亥鼻地区事務局 総務課総務第一係

## 事務局からのお知らせ

### 1. 登録情報に変更があった場合

登録情報に変更がある場合は出来るだけ早く事務局までお知らせください。

特に千葉県外へ転居した場合、本会は退会となりますのでご留意ください。転居先でも献体登録を希望される方にはお近くの献体登録団体をご案内しております。なお、各団体とも死亡後の登録はできませんので、県外転居のご連絡はお早めをお願いします。

### 2. 「解剖学への招待」・「千葉白菊(第54号〜58号)」ご希望の方へ

篤志解剖全国連合会が毎年発行している「解剖学への招待」2020年度版をご希望の方にお送りします。また、会報「千葉白菊(第54号〜58号)」も若干在庫があります。ご家族やご友人にお渡しするなどでご入用の方は、事務局にお問い合わせください。

### 編集後記

先日、「入会申込書にはB型肝炎は駄目と書いてある。是非献体したいが何とかならないか」と聞かれた。結果は明白だったが、先方の気持ちを考えるとすぐには断りにくく、「大学の先生に聞いてあげるから」と答えてしまった。鈴木先生のお話では、ホルマリンで処置をしているので学生は大丈夫だが、処置をする技術職員には感染の危険がある。他大学では実際に亡くなった事例もあるそうで、残念だが、その方はお断りするしかなかった。



### 千葉白菊会会員募集中!

私たちは入会時に献体登録をし、「死亡した時に千葉大学医学部に遺体を献体する」活動をしています。献体は医学生の解剖実習のほか、現役医師の技術向上の為に役立っています。

お問い合わせ・お申し込みは  
043 (222) 7171 内線5023へ

### クイズの答え

① 生                      ② 家  
おまけ しんさつけん  
★は(さ)

### 千葉白菊会会報第58号 令和3年9月発行

**発行人** 大澤國昭  
**発行所** 篤志献体運動団体 千葉白菊会  
〒260-8670  
千葉市中央区亥鼻1-8-1  
千葉大学医学部内  
TEL 043-222-7171 (内線 5023)  
**印刷所** 三陽メディア株式会社 千葉営業所  
〒260-0824  
千葉市中央区浜野町1397  
TEL 043-266-8437

そんなことがあって、(晴れて献体登録できた)会員にも、医学の役に立ちたいと切望しながら入会できない人がいることを知って欲しいと思った。そして、その人の為にも、無事に献体することを目標にして欲しい。

高齢者のワクチン接種はほぼ終わったが、世間には新型コロナウイルスに罹ってしまった人、様々な事情でマスクをつけられない人やワクチンを受けていない人がいて、それが原因で差別を受けることもあると聞く。人を非難するばかりでなく、それぞれの事情にも気を配れるようになりたい、と思う秋の日である。

(青柳)



# 献体について (Q & A)

献体登録希望者からの質問 → 千葉白菊会 (043-222-7171内線5023)

- Q.** 千葉白菊会に入会するにはどうすればよいのですか。
- A.** 白菊会事務局へお電話をいただければ、献体に関するご案内および入会申込書を送付いたします。
- Q.** 入会時、親族が誰もいないので友人等の同意で入会可能ですか。
- A.** 入会時には3名以上の同意をお願いしております。献体後ご遺骨をお返ししますので、お身内の方もしくは献体から2～3年後に必ず連絡が取れ、大学までご遺骨の引取りに来ていただける方をお願いいたします。
- Q.** 手術を何度も受けているが献体できますか。
- A.** 問題なく献体していただけます。
- Q.** 献体できない病歴などはありますか。
- A.** B型肝炎・C型肝炎・結核などの感染症に罹患されたことのある方は献体をお断りさせていただいております。現在は医療技術の進歩により完治していると言われても、免疫力等が低下した場合は再発してしまう可能性があります。その場合、自覚症状が無くても、処置をする職員や解剖をする医学生に感染してしまう危険があるため献体登録はお断りしています。
- ※現在「新型コロナウイルス感染」により亡くなられたと診断を受けている場合は、処置の際にスタッフが感染するリスクがあります。献体されるときに大学にご連絡を頂くこととなりますが、新型コロナウイルス感染が確認されている場合は、献体をお断りさせていただいております。今後新しい治療方法が確立されるなど状況が変わるごとに対応については見直して参りますので、何卒ご理解いただきますようお願いいたします。
- Q.** 病歴以外で献体ができない場合はありますか。
- A.** 交通事故や自殺、事件性があり警察が介入している場合、県外で亡くなられた場合、ご家族の承諾が得られない場合、遺骨の引取者がいない場合などの状況では献体が出来ない可能性があります。
- Q.** 献体時の費用は必要ですか。
- A.** ご遺体の引取りからご遺骨の返還までの諸費用（自宅・病院等から大学までの搬送費、火葬費など）は、大学にて負担いたします。ただし通夜・葬儀および埋葬費用等は大学で負担することはできません。
- Q.** アイバンクへの登録や臓器提供意思表示カードを携帯していても入会できますか。
- A.** 併行登録は差支えありませんが、アイバンクへの献眼は1眼のみとなります。また、臓器提供をされた方は献体をすることができません。

## 千葉白菊会会員からの質問 → 千葉白菊会 (043-222-7171内線5023)

- Q.** 住所や連絡者が変わったらどうすればよいですか。
- A.** 住所や電話番号、連絡者（会員証裏面に記載の縁故者）等の変更は、できるだけ早く白菊会事務局へ連絡願います。また、会員証紛失による再発行もご連絡ください。
- Q.** 千葉県外へ転居した場合はどうすればよいですか。
- A.** 千葉白菊会ではお迎え可能地域を千葉県内とさせていただいております。県外へ転居の場合は白菊会事務局へ連絡願います。退会のお手続き、あるいは転居先地域の献体登録団体への転籍手続きをご案内いたします。また、県外の病院等にてお亡くなりになった場合ご遺体のお迎えができないことがございます。
- Q.** 入会后、状況や心境の変化により登録を取消することができますか。
- A.** 登録の取消は可能です。会員番号・氏名・退会理由を記入し（書式は問いません）、会員証を同封のうえ白菊会事務局宛てに郵送にてお届けください。万が一、会員証紛失の場合は紛失の旨ご記入ください。

## ご家族からの質問 → 千葉大学医学部 (043-222-7171内線5017)

- Q.** 会員が死亡したとき、どうすればよいですか。
- A.** まず、できるだけ早く千葉大学医学部へ連絡してください。24時間受付可能です。ご連絡をいただいた際にお迎えの日時を相談いたします。なお、夜間・休日は警備員が対応いたします。
- Q.** 献体をするときのご遺体に何を着せたらいいですか。
- A.** 特に決まりはございませんので、ご家族が用意されたものでよろしいかと思えます。
- Q.** 遺骨が返還されるまでの期間はどのくらいですか。
- A.** ご遺体をお預かりしてからおよそ2～3年お待ちいただくこととなります。ご遺骨は、通常千葉大学の解剖慰霊祭・ご遺骨返還式にてお返しいたします。解剖終了後、ご遺骨返還の目途ができましたら大学より連絡いたします。
- Q.** 献体後、遺体との対面は可能ですか。
- A.** 申し訳ありませんが、大学への搬送後にご遠慮いただいております。
- Q.** 献体後、遺骨を大学で預かってもらえますか。
- A.** 申し訳ありませんが、ご遺骨の保管場所がないため返還させていただいております。
- Q.** 遺骨を灰にして返してもらえませんか。
- A.** 申し訳ありませんが、ご遺体は火葬後ご遺骨の状態にてお返ししております。また、納骨・散骨等も行っておりません。

# 千葉白菊会会員のご家族の方々へ

## 献体の実行について—千葉大学医学部からのお願い

千葉白菊会会員の方がお亡くなりになった場合、通夜・告別式・大学からのお迎えの日取り等をご遺族の皆様でお決めになったうえで、千葉大学医学部に電話にてご一報ください。

なお、千葉白菊会への連絡は必要ありません。

### 1. 大学への電話連絡 043-222-7171 (代表)

電話交換手に「献体登録者が亡くなりましたので、献体を行います」とお伝えください。

担当者におつなぎしますので、献体の日取り等についてお知らせください。

#### ○平日 (午前8時30分から午後5時15分)

医学部の職員 (内線5017番) が対応します。

#### ○上記以外の夜間、土日祝日の場合

職員の勤務時間外は警備員が対応するようになっています。

### 2. お知らせいただく内容

ご遺体を大学へお渡しいただく日時などについてお知らせください。その他ご不明な点はここでお問合せください。お迎えには大学から委託された葬儀社の者が参ります。

### 3. 献体手続きに必要な書類

①死亡診断書の写し……医師の死亡診断書をコピーしておいてください。(お迎えの際に必要となりますので必ずお迎えまでにご用意いただき携携の葬儀業者にお渡しください)

②埋火葬許可証……市町村役場に医師の死亡診断書を添えて「死亡届」を提出すると交付されます。その際、火葬場所は「千葉市斎場」とご記入ください。

③解剖に関する遺族の承諾書……献体お預かり後、郵送いたしますので、ご署名・捺印のうえご返送ください。返信用封筒を同封しますので、埋火葬許可証と一緒にご返送ください。

<まとめ>①の書類はお迎え時に葬儀業者に手渡し。②・③の書類は後日大学から返信用封筒が届いてから大学へ郵送。

### 注意事項

※ 亡くなられてからお迎えまで数日間あく場合は、ご遺体が傷まないようご配慮ください。

お棺にドライアイスを入れる場合は、直接ご遺体に触れないようお棺の四隅に入れてください。

※ 事故死 (交通事故、れき死、水死等) や自殺の場合は献体できません。その他、お体の状態により保管のための処置が困難な場合にも、献体できないことがあります。

ご不明の点がありましたら、医学部担当者にお問合せください。

(043-222-7171 内線5017)

### アイバンクにも登録されている場合

※ 登録者が亡くなられた際には、なるべく早く、まずアイバンク協会にご連絡ください。

平日 043-222-6803、夜間休日 043-222-7171 内線6547

その際、アイバンク協会に献体登録者であることを合わせてお伝えください。

(献体登録者はアイバンクへの提供は片目だけになります。)

その他、アイバンクに関する詳細は、アイバンク協会にお問合せください。

アイバンク協会への連絡後、あらためて大学へ献体の電話連絡をお願いいたします。